

山梨県南巨摩郡鰐沢町

鰐沢河岸跡

(横町地区)

- 宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -

平成 20 年 3 月

鰐沢町

鰐沢町教育委員会

埋蔵文化財発掘調査支援協同組合

山梨県南巨摩郡鰍沢町

鰍沢河岸跡

(横町地区)

－宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

平成 20 年 3 月

鰍 沢 町
鰍沢町教育委員会
埋蔵文化財発掘調査支援協同組合

例 言

- 1 本書は、山梨県南巨摩郡鰐沢町横町 1466-1 番地外に所在する鰐沢河岸跡（横町地区）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、宅地造成に伴う事前の埋蔵文化財発掘調査として、事業主の鰐沢町から埋蔵文化財発掘調査支援協同組合が委託を受けて、鰐沢町教育委員会指導のもと発掘調査から整理・報告書刊行に至るまでの業務を行った。
- 3 本報告書の執筆と編集は、鰐沢町教育委員会の指導のもと埋蔵文化財発掘調査支援協同組合 調査研究員 高野高潔が行った。
- 4 発掘調査、資料整理及び報告書作成の過程で各方面から賜った御協力については、本文中の第4章末尾に記載した。
- 5 調査に係わる出土遺物及び図面、写真等の諸記録は、鰐沢町教育委員会が保管している。

本 文 目 次

例言

第1章 調査経緯と方法

1 調査に至る経緯	1
2 調査体制	1
3 調査方法	2
4 調査の経過	3

第2章 調査遺跡の環境

1 地理的環境	4
2 歴史的環境	4

第3章 調査の結果

1 遺構	8
2 遺物	25

第4章まとめ

遺物観察表

写真図版

報告書抄録

挿 図 目 次

第1図 調査区位置図	5	第14図 1号礎石建物跡	22
第2図 鰐沢河岸跡周辺の遺跡分布図	7	第15図 土坑（1）	23
第3図 調査区全体図	8	第16図 土坑（2）	24
第4図 A～I面 遺構配置図	10	第17図 出土遺物実測図 磁器（1）	26
第5図 J～R面 遺構配置図	11	第18図 出土遺物実測図 磁器（2）	27
第6図 2A～2B面 遺構配置図	13	第19図 出土遺物実測図 磁器（3）	28
第7図 2C～2D・2F面 遺構配置図	14	第20図 出土遺物実測図 磁器（4）	29
第8図 2E・2G面 遺構配置図	15	第21図 出土遺物実測図 磁器（5）	30
第9図 2H～2I面 遺構配置図	16	第22図 出土遺物実測図 磁器（6）	31
第10図 土層断面図（1）	17	第23図 出土遺物実測図 陶器（1）	32
第11図 土層断面図（2）	18	第24図 出土遺物実測図 陶器（2）	33
第12図 石垣立面図（1）	20	第25図 出土遺物実測図 陶器（3）	34
第13図 石垣立面図（2）	21	第26図 出土遺物実測図 陶器（4）	35

第 27 図	出土遺物実測図	陶器（5）	36	第 32 図	出土遺物実測図	古錢類（2）	41
第 28 図	出土遺物実測図	土器（1）	37	第 33 図	出土遺物実測図	金属製品（1）	42
第 29 図	出土遺物実測図	土器（2）	38	第 34 図	出土遺物実測図	金属製品（2）	43
第 30 図	出土遺物実測図	土製品・骨角製品	39	第 35 図	出土遺物実測図	瓦	44
第 31 図	出土遺物実測図	古錢類（1）	40	第 36 図	出土遺物実測図	石製品	45

写真図版目次

図版 1	1 次調査区全景・調査風景	図版 9	土製品・骨角製品（1）
図版 2	2 次調査区全景・調査風景	図版 10	骨角製品（2）・金属製品（1）
図版 3	A～H面	図版 11	金属製品（2）
図版 4	I～K面・1～3号土坑	図版 12	金属製品（3）
図版 5	L～P面	図版 13	金属製品（4）
図版 6	Q～2A面・4号土坑	図版 14	金属製品（5）・瓦（1）
図版 7	2B～2E面・2-1～2・4号土坑	図版 15	瓦（2）・石製品
図版 8	2F～2H面・調査後状況		

第1章 調査経緯と方法

1 調査に至る経緯

国土交通省関東地方整備局による一般国道 52 号線改築（甲西道路建設）事業に伴い、鰐沢町は公共事業代替地として活用を図るために山梨県鰐沢町横町 1466-1 番地外における宅地造成を計画した。そして、鰐沢町横町 1466-1 番地外における宅地の造成計画に伴う「土木工事等予定地内における埋蔵文化財包蔵地の有無について」の協議が鰐沢町と鰐沢町教育委員会（以下「町教委」と表記）との間で行なわれた。

当該地周辺は鰐沢河岸跡として周知されており、前述の国土交通省関東地方整備局による一般国道 52 号線改築（甲西道路建設）事業に伴う発掘調査は山梨県埋蔵文化財センターにより平成 12 年から実施されてきた。鰐沢河岸跡はそれ以前にも、建設省関東地方建設局甲府工事事務所が行なう明神白子護岸工事に伴う発掘調査、国土交通省関東地方整備局及び山梨県土木部が行なう鰐沢町白子明神地区宅地水防災事業に伴う発掘調査が山梨県埋蔵文化財センターにより実施されている。このため、町教委は、照会地が周知の遺跡の範囲に所在し、過去における周辺の発掘調査結果からも照会地に遺跡が存在する可能性が高いとして、照会地が埋蔵文化財包蔵地である旨的回答を行い、試掘調査を実施する必要があることを説明した。平成 16 年 11 月 17 日に町教委で、鰐沢町教育委員会と鰐沢町の間で発掘調査に関する協議が行われた。事業計画が確定したため、平成 16 年 12 月 15 日付けて、山梨県教育委員会へ文化財保護法第 57 条の第 1 項の規定に基づく通知を行い、発掘調査を実施する運びとなった。

その後、鰐沢町との間で協議を行い、平成 16 年 12 月 20 日付けて山梨県教育委員会へ文化財保護法第 57 条の第 1 項に基づく届出を行った。これに伴い、平成 16 年 12 月 22 日付けて、鰐沢町と埋蔵文化財発掘調査支援協同組合（以下「埋文協」と表記）との間で、鰐沢町 1466-1 番地外における埋蔵文化財発掘調査の委託契約を締結し、平成 17 年 1 月 24 日から発掘調査を開始した。

発掘調査は 2 度に分けて実施した。平成 16 年度は事業範囲 467 m² のうち 325 m²（鰐沢町横町 1466-1 番地外）を調査し（1 次調査）、平成 17 年 3 月 18 日付けて鰐沢警察署長へ文化財保護法第 59 条第 2 項に基づく通知を行った。

残地分 142 m²（鰐沢町横町 1513-5 番地外）の発掘調査は、平成 19 年度に 2 次調査として実施した。2 次調査は、平成 19 年 9 月 3 日付けて山梨県教育委員会へ文化財保護法第 92 条第 1 項に基づく届出を行った。平成 19 年 10 月 10 日から発掘調査を開始し、平成 19 年 11 月 22 日付けて鰐沢警察署長へ文化財保護法第 100 条第 2 項に基づく通知を行った。

2 調査体制

発掘調査は町教委の指導のもと埋文協が実施した。整理作業は 1 次調査の作業を埋文協三郷事務所（埼玉県三郷市）において行い、2 次調査の作業を埋文協西関東事務所（山梨県笛吹市）において行なった。

以下に担当者名を掲げる。

調査担当者：高野高潔

測量担当者：廣瀬芳仁、飯窪基、小林信一、丸山真一、堀内太一

発掘補助員：浅野美代子、今津武男、折居一男、斎藤利男、瀧澤かねじ、根津育美、長谷川恵美子、

原田みゆき、樋口啓子、望月忠、安原敏夫（以上 1 次調査）

今津武男、遠藤実雄、神澤正孝、土井みさほ、原田みゆき、深沢徳子、望月明（以上 2 次調査）

整理補助員：伊藤幸子、上村康江、小松崎幸子、松原和子（以上 1 次調査）

小幡浩子、高田和子、立花重光、柄原好美、保坂薰（以上 2 次調査）

3 調査方法

(1) 表土の掘削

表土掘削は建設機械を用いて行なった。1次調査では、バックホウ 0.4 m³で表土を掘削し、掘削による発生土を4tダンプで運搬・仮置きした。2次調査ではバックホウ 0.4 m³のみで作業を行なった。仮置きした発生土は調査終了後に掘削時と同様の機械を用いて埋め戻しを行なった。建設機械の操作・運転は池谷建材店が行なった。

(2) 遺構・遺物の検出・精査

遺構・遺物の検出・精査は、検出順に名称・番号を付し、移植録・小型ツルハシ等を用いて人力で順次行なった。遺構精査による発生土は 2.5 t クローラーダンプで運搬・仮置きした。2次調査では発生土運搬にベルトコンベヤーも使用した。機械の運転は資格を有する発掘補助員が従事した。

(3) 遺構・遺物の表記

検出した整地面には区割りごとにアルファベット順の記号名を付した。1次調査では A, B, C とし、2次調査ではアルファベットの頭に数字の 2 を付して 2A, 2B, 2C とした。石垣は検出順に番号を付した。1次調査では石垣 1, 2, 3 とし、2次調査では番号の前に 2 を付して、石垣 2-1, 2-2, 2-3 とした。各整地面で検出された遺構にも同様の方法で番号を付した。

遺物は、各遺構で検出順に番号を付した。小破片については各遺構の一括出土遺物として表記した。

(4) 基準点及び検出遺構・遺物の測量

基準点測量は、1次調査では国土交通省が設置する水準点網の座標測量成果により、4級の精度を維持し行なった。2次調査では G P S 測量により 4 級基準点測量を行なった。測量成果はいずれも世界測地系とした。

遺構平面・立面、土層断面、遺物の座標と標高の記録及び図面作成は、1次調査ではトータルステーションによる測量と 3 次元写真計測を併用して行なった。2次調査ではトータルステーションによる測量と 3 D レーザスキャナー測量を併用した。

測量に使用した器材は以下の通りである。

トータルステーション:Nikon-Triple FALDY-EN3, 編集ソフトウェア:SOARS+, G P S 測量 受信機:トリプル 4000SE, アンテナ:Compact Dome, 解析ソフトウェア:TRIMBLE NAVIGATION, LTD WAVE VERSION 2.35. 3 次元写真計測:Kuraves-G2, 3 D レーザスキャナー:ライカ HDS3000。

また、土色表記は農林水産省農林水産技術会議事務局監修 2004『新版標準土色帖』(26 版)に基づき記録した。

(5) 写真撮影

調査の記録写真是、中判カメラ(モノクロ)と、35mm 判カメラ(モノクロ・リバーサル)で撮影した。また、補助としてデジタルカメラ(一眼レフカメラ・コンパクトカメラ)も適宜使用した。使用した器材は以下の通りである。

カメラ(レンズ):MAMIYA RB-67 (KL 127mm F3.5L, KL 65mm F4L), Nikon F80 (Ai AF Zoom Nikkor 24~85mm F2.8~4D(IF)), Nikon D50 (AF-S Zoom Nikkor ED 18~55mm F3.5~5.6G), Nikon COOLPIX3700

フィルム:FUJIFILM NEOPAN100 ACROS 120, FUJIFILM NEOPAN100 ACROS 135, FUJIFILM FJICHROME SensiaIII100
空中写真撮影は、1次調査では上層段階と終了時の 2 回、2次調査では終了時に 1 回行なった。撮影は有限会社栗田商事が行なった。使用的器材は以下の通り、フィルムは上記と同様の 3 種である。

産業用無人ヘリコプター(62cc ガソリンエンジン搭載)。

カメラ(レンズ):PENTAX645 (45 mm), CONTAX167MT (28 mm)。

(6) 遺物の注記・接合

出土遺物への注記は、「KJK A-1」「KJK 2B 一括」のように、鰐沢河岸跡の遺跡名記号(KJK)、出土遺構の名称・記号(A・B)、遺物番号(1・一括)の順に記した。

遺物の接合はセメダインCを使用して行なった。

(7) 遺物の実測・トレース・撮影

実測は手測りで行った。トレースは実測図をスキャナーで読み込み、デジタルトレースした。使用編集ソフトウェアは、Photoshop Ver. 6.0 (ADOBE), Illustrator Ver. 10.0 (ADOBE) である。

遺物の撮影は一眼レフデジタルカメラを使用した。撮影カメラ（レンズ）はNikon D50 (Ai AF Zoom Nikkor 24~85mm F2.8~4D(IF)) である。

(8) 掲図・図版の作成

位置図は、鰐沢町発行（平成 8 年 7 月修正）の 1/2,500 都市計画図を使用して作成した。

地形図は、国土地理院発行（平成 14 年 6 月 1 日発行）の数値地図 25000（地図画像）「甲府」所収「鰐沢」を使用して作成した。

磁器・陶器・土器を掲載した掲図では、遺物実測図と遺物写真を並列して掲載し、実測図中の図柄や文様の表記を省略した。写真は写真実測目的のものではないため、大きさは正確なものではなく、歪みの補正もしていない。土製品・金属製品・石製品などの遺物写真は写真図版として掲載した。

各掲図の掲載遺構・遺物の縮尺は以下を基本とした。また、掲図中の尺度にも縮尺を付記した。

遺構：調査区全体図 1/200, 遺構配置図 1/100, 土層断面図 1/100, 石垣 1/100, 磚石建物跡 1/80, 土坑 1/40

遺物：磁器 1/4, 陶器 1/4, 土器 1/4, 土製品 3/4, 骨角製品 3/4, 古銭 3/4, 金属製品 1/2, 石製品 1/4, 石臼 1/10

4 調査の経過

1 次調査の発掘作業は平成 17 年 1 月 21 日から 3 月 18 日まで実施した。2 次調査は平成 19 年 10 月 10 日から 11 月 20 日まで実施した。整理作業は平成 17 年 3 月 8 日から平成 20 年 3 月 28 日に実施した。経過の詳細は以下の通りである。

【1次調査】

平成 17 年 1 月 21 日、1 次調査区の表土掘削及び基準点測量を開始。1 月 24 日、遺構・遺物の検出及び精査を開始。測量・撮影等の遺構及び遺物の記録作業は、調査の各段階において適宜実施。2 月 7 日、上層段階の空中撮影を実施。3 月 7 日・8 日、鰐沢小学校・鰐沢中学校遺跡見学会を実施。3 月 9 日、終了段階の空中撮影を実施。3 月 12 日、仮置きした発生土の埋め戻しを実施。

発掘作業に並行して 3 月 8 日、遺物の水洗・注記・分類、台帳整理を開始。6 月 3 日、接合作業を開始。6 月 21 日、遺物実測を開始。7 月 4 日、遺物実測図のトレースを開始。

【2次調査】

平成 19 年 10 月 10 日、2 次調査区の表土掘削を開始。10 月 11 日、遺構・遺物の検出及び精査を開始。測量・撮影等の遺構及び遺物の記録作業は、調査の各段階において適宜実施。10 月 15 日、基準点測量を開始。11 月 16 日、空中撮影を実施。11 月 19 日、仮置きした発生土の埋め戻しを実施。

11 月 20 日、遺物の水洗・注記・分類、台帳整理を開始。11 月 27 日、接合作業を開始。12 月 11 日、遺物実測・トレースを開始。

1 次調査で出土した遺物の数量は、整理箱（内寸：545×336×150mm）に換算して 10 箱、2 次調査で出土した遺物の数量は、7 箱であった。

第2章 調査遺跡の環境

1 地理的環境

鰐沢河岸跡は、山梨県の南巨摩郡鰐沢町に位置する（第1図）。山梨県は東側で埼玉県・東京都・神奈川県、南・西側で静岡県、西・北側で長野県と接している。その県境の多くは南に富士山、西に赤石山地（南アルプス）、北に八ヶ岳連峰・関東山地、東に丹沢山地といった山々の尾根筋を境としている。山梨県は2,000～3,000m級の山地に囲まれた地域である。また、県内も御坂山地と笛子峰以北の小金沢連峰という北東から南西方向に横切る連山により区分される。山地を隔てて東部地域は富士山麓・桂川流域、西部地域は甲府盆地となる。さらに、西部地域は南北で地形が異なり、北側の開けた甲府盆地と南側の富士川流域峡谷部とに大別される。鰐沢河岸跡のある鰐沢町は、この西部地域の地形の変換点に位置している。

三方を山地に囲まれ逆三角形を呈する甲府盆地には主要河川が二川流れている。北東から南へ流れる笛吹川と北西から南へ流れる釜無川で、この二川が盆地に流れ込む水を集めながらVの字に南進している。この二川と御坂山地から流れ出る芦川が盆地の南部で合流する。ここを「三川落合」とよび、ここより先は富士川と呼称されるようになる。富士川は間もなく東側に御坂山地、西側に巨摩山地が迫り、「禹之瀬」と呼ばれる峡谷入口の狭窄部へと至る。盆地中の水がこの地へと集中し堰止められることから、漏斗の窄まる口に例えられる地点で、水害が発生しやすい場所である。以後、富士川は御坂山地・天守山地、巨摩山地・身延山地間の50km以上にも及ぶ長い峡谷を急ぎ下り駿河湾へと流れ出る。

鰐沢河岸跡は鰐沢町の北東部にある明神町白子・横町一帯に位置している。富士川右岸の河畔で「禹之瀬」より500m程上流に当る。西の巨摩山地と東の富士川に挟まれて南に向かい先續る、南北550m、東西220mの小さな三角地である。北辺は巨摩山地から富士川へ流れ出る南川の川口に当る。平成12年以来の山梨県埋蔵文化財センターによる発掘調査により、北から「問屋街地区」、「道路地区」、「御蔵台地区」、「野守の原地区」、「口留番所地区」とされている。

今回は宅地造成に伴い横町1466-1番地外において調査を実施した。当調査区の横町地区は鰐沢河岸跡の北辺部に当り、南川の左岸に位置する。調査地は南川から北に10m、富士川から西に250mの地点で、標高は約244m、富士川との比高差は約9mである。現在では流路変更された東川が調査区の東に流れている。

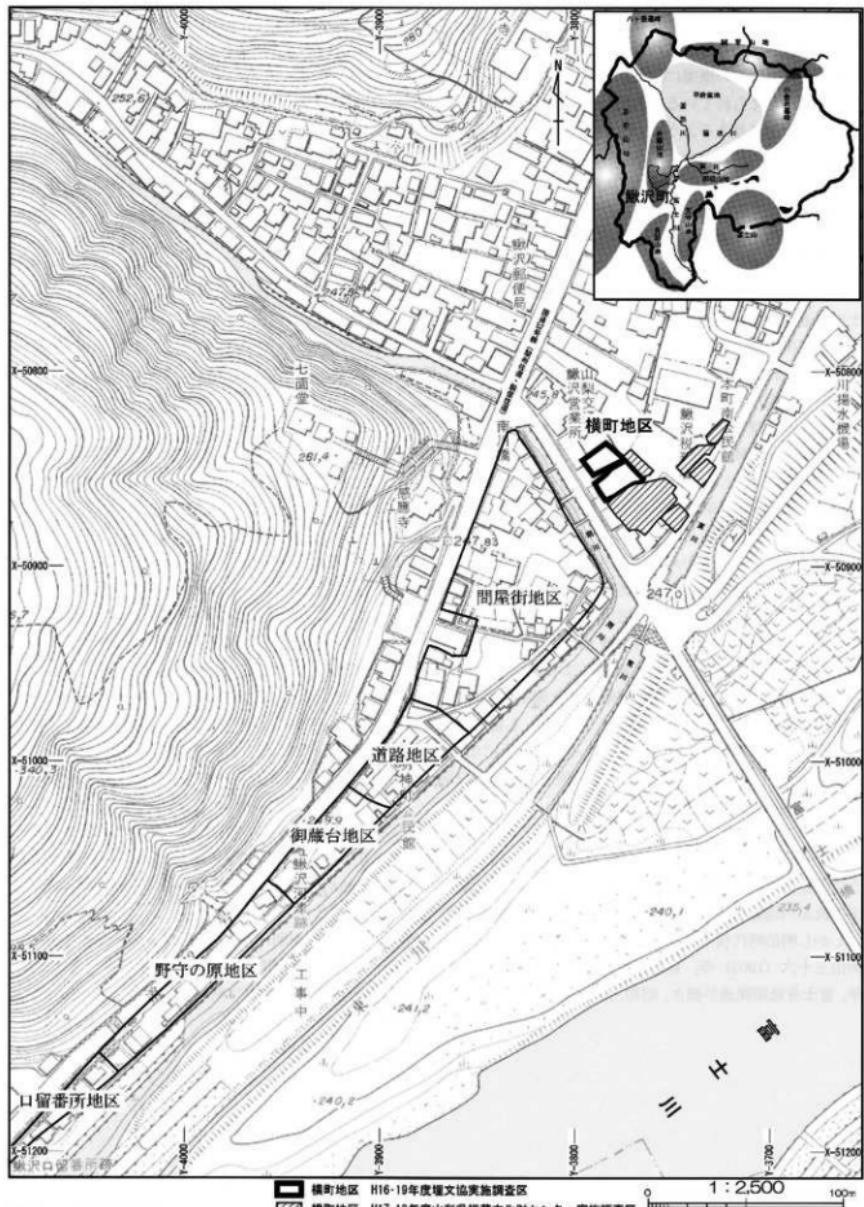
2 歴史的環境

甲府盆地には湖水伝説が伝えられている。太古周囲に山が巡り閉ざされていた盆地には水が溜まっており、蹴裂明神や国母地蔵、行基など多くの言い伝えがあるが、その力により山を切り開き盆地に溜まる水を流失させ盆地の陸化・治水を行なったというものである。この開削の地とされるのが鰐沢河岸跡に隣接する富士川の「禹之瀬」である。伝説を伝えるものとして、現在では禹之瀬から1km程下流の国道52号線沿いに立つ寛政十（1798）年、建立の銘を持つ蹴裂明神碑がある。また、「禹之瀬」の地名は治水に成功したとされる中国古代の夏王朝「禹帝」に由来するとされている。

鰐沢河岸跡の位置する鰐沢町北東部は富士川畔の平坦地である。これに対し町内の周辺他地域は多くを山地が占めている。このため町内で確認されている遺跡は少數である。遺跡は僅かな河岸段丘や尾根筋に立地している（第2図）。

町内で最古の遺跡は縄文時代の国見平遺跡、日向遺跡、舟塚遺跡である。弥生時代の遺跡は確認されていない。古墳も町内では確認されていないが、隣接する増穂町で鎌塚古墳、無名塚1号墳・2号墳、大塚古墳、塚穴古墳、最勝寺馬門古墳が知られている。

律令制下では、鰐沢町の北東部は「和名抄」に見られる東海道甲斐国巨摩郡大井郷に属するものとみられている。但し「甲斐国志」では鰐沢を大井郷、以南を川合郷とするが、他説もある。平安時代末には大井郷に私領が成立し、



第1図 調査区位置図

大井庄へと移行していたとみられている。鎌倉時代には大井庄司である橘姓大井氏の館が、現在の鰐沢町八幡町にある蓮華寺境内にあったとされる。鎌倉時代から戦国期にかけては釜無川以西の地域を西郡と通称されるようになり、往時の鰐沢は西郡の南端に位置していたといえる。また、戦国期の西郡には西郡以南の河内の地へと通ずる西郡路が存在したと考えられている。鰐沢から南は駿河へと通ずる河内路（駿州往還・身延路）となる。その利用は、日蓮の身延入山などに見えるように、鎌倉時代からすでに確認されている。戦国期の河内路は伝馬も配備され、武田信玄の駿河侵攻にも利用された。鰐沢には関が置かれていたと考えられている。

武田氏断絶後は、織田信長の家臣河尻秀隆支配下、次いで徳川家康の直轄領となる。この頃から西郡は西郡筋と呼ばれる。豊臣秀吉による徳川家康の移封後、羽柴秀勝、加藤光宗、浅井長政・長維（幸長）父子と支配が変遷し、慶長年間に再び徳川家康の直轄領となる。

年代には諸説あるが、慶長十二（1607）年に徳川家康の命で、京都嵯峨の角倉了以が富士川の開削を始め、慶長十七（1612）年に通船が開始したと考えられる。これを契機に鰐沢では河岸が形成され、幕府への年貢米を廻米する富士川舟運の要衝の地となる。廻米の開始は寛永九（1632）年とされる。

鰐沢河岸では甲府役所支配下諸村と信州松本領・諏訪領の廻米を行なった。各地から運び込まれた年貢米は一時御米蔵に置かれ、富士川の水位に従って二十六俵から三十二俵を舟に積見込み順次川下げされた。富士川を下った年貢米は一度岩淵で陸揚げされ、陸路で蒲原浜まで運ばれた。そこから再び舟で清水の巴川東岸にある向島の甲州廻米置場へ運ばれ、清水湊から「番船」と呼ばれる元船で江戸浅草御蔵前へ廻米された。

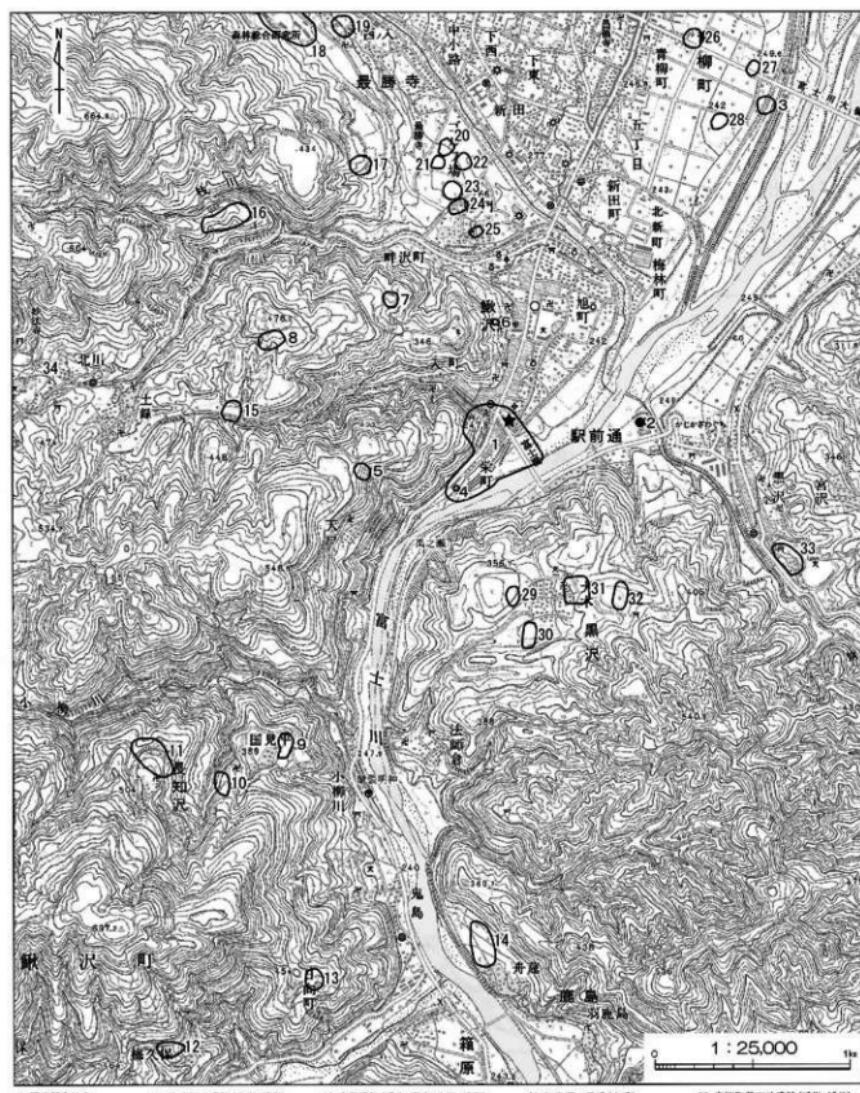
諏訪領の御米蔵は鰐沢町本町に、松本領の御米蔵は横町奥の富士橋の北方にあったとされる。また、横町には、南川尻・二軒屋とともに船大工の造船場があったとされている。鰐沢の他に河岸は黒沢と青柳にも設置され甲州の三河岸とされた。黒沢河岸では石和役所支配下の年貢米と田安領の年貢米を廻米し、青柳河岸では市川役所支配下の年貢米が廻米された。

舟の川下げには1日かられないが、川上げには4、5日を要した。河岸は幕府に保護されており、様々な役と「運上」を納めてはいたが、舟運の商業利用が許されていた。川上げ時の主な荷には「下げ米上げ塩」と呼ばれるほどの塩があった。多くは瀬戸内海の塩が清水湊に運ばれ、蒲原浜・岩淵を経て、鰐沢河岸に川上げされた。赤穂塩、齊田塩は川上げ後には鰐沢塩として勘定・諏訪を経て塩尻町まで運ばれた。他に塩魚なども多く富士川舟運で川上げされた。但し、急送を要する生魚の輸送には中道往還や鎌倉街道（御坂路）が利用された。

駿河・東海道へと通ずる道は緩傾斜地を通る古来の若彦路から、急傾斜地を含む御坂路（鎌倉街道）・中道往還へと変遷が見られる。近世の駿州往還（河内路）も富士川舟運従事者による各中継宿場の活性化に加え、身延筋も盛んになることから以前に増した賑わいをみせるようになる。やがて需要の高まりに応じて難所開削が行なわれた結果道筋が変遷し、宝永三（1706）年には鰐沢河岸の南端に口留番所が設置されていたものと考えられている。從前は小室に關が置かれていたとされている。

文政四（1821）年の御米蔵・詰所の他、家数七十七軒が焼失した文政の大火に伴う危機を経てもなお、近世を通じて河岸・宿駅の要衝の地として活況を呈した鰐沢は、明治時代に入り更なる経済的発展をみせた。年貢米の廻米という公的の使命は失ったが、明治八（1875）年の富士川運輸会社の設立を始めとした、水運会社興隆により依然、信州にまで及ぶ内陸輸送の幹線・経済の拠点としての役割を担い続けた。

しかし明治時代後半になると、鉄道の開通を契機に水運は徐々にその役割を明け渡していくことになる。中央線の明治三十六（1903）年、新宿甲府間開通、明治四十四（1911）年、名古屋甲府間開通。更に身延線の大正九（1920）年、富士身延間開通が続き、昭和三（1928）年身延甲府間開通と共に舟運・河岸の役割は終りを告げることとなつた。



- | | | | | |
|----------------|--------------------|-------------------------|---------------------|--------------------|
| * 考古報告地點 | 7 大法師新入遺跡(中世-近世) | 14 舟置遺跡(绳文-平安、中世-近世) | 21 鮎名塙2号墳(古墳) | 28 青柳町藍田山遺跡(近世-近代) |
| 1 桶沢河岸跡(近世-近代) | 8 大法師古墳跡(古墳-平安-後世) | 15 小面下土崎遺跡(古墳) | 22 鷺穴古墳(古墳) | 29 宮ノ前遺跡(縄文-平安) |
| 2 黒川河岸跡 | 9 國見平遺跡(縄文-平安-中世) | 16 嘉麻寺古跡(中世) | 23 鮎名塙1号墳(古墳) | 30 宮ノ前遺跡(縄文) |
| 3 背都河岸跡(近世-近代) | 10 横村遺跡(平安-中世) | 17 嘉麻寺大庭山遺跡(縄文-弥生-古墳) | 24 大庭古墳(古墳) | 31 大木底里丘 |
| 4 犬頭口營養所跡 | 11 白向遺跡(縄文-平安-中世) | 18 嘉麻寺平野遺跡(縄文-弥生-古墳-中世) | 25 嵐拂寺西門古墳(古墳) | 32 宮の前遺跡(旧石器-縄文) |
| 5 天芦瓦窯跡(近世) | 12 鮎久保遺跡(中世-近世) | 19 嘉麻寺西ノ入遺跡(縄文-弥生-古墳) | 26 青柳遺跡(弥生-古墳) | 33 黒沢の口營養所跡 |
| 6 大井氏城敷(中世) | 13 向町御廻跡(近世) | 20 雄鹿古塚(古墳) | 27 嵐拂寺町鹿澤口遺跡(近世-近代) | 34 小室の口營養所跡 |

第2図 銀沢河岸跡周辺の遺跡分布図

第3章 調査の結果

1 遺構

調査区を1次調査区と2次調査区とした(第3図)。1次調査では整地面18面, 石垣12列, 碓石建物跡1軒, 土坑4基を検出した。2次調査では整地面8面, 石垣5列, 土坑4基を検出した。整地面はアルファベット順に名称を付けた。1次調査区検出面をA～R面, 2次調査区検出面を2A～2H面とした。



第3図 調査区全体図

(1) 整地面

A面は1次調査区北東に位置していた(第4・10図、図版1・3)。暗褐色砂質土でしまりが強い平坦面であった。B面、1号石垣に伴う面と考えられる。北側、東側は調査区外であった。遺物は磁器広東碗、陶器灯明皿・行平鍋、泥面子、寛永通寶などが出土した(第17図12、第18図42、第19図53・70、第23図24・25、第24図33、第26図75、第29図19、第30図8、第31図10)。

B面は1次調査区北東に位置していた(第4・10図、図版1・3)。にぶい黄褐色砂質土でしまりが強い平坦面であった。北西側でC面に切られていた。A面、1号石垣に伴う面と考えられる。北側は調査区外であった。遺物は陶器小瓶が出土した(第23図8)。

C面は1次調査区北西に位置していた(第4・10図、図版1・3)。北東側は石が敷かれ、その上に下水管が設置されていた。南西側は灰黃褐色砂質土でしまりが強い平坦面であった。B面を切っていた。西側は調査区外であった。B・D・E面より新しく、2号石垣に伴う面と考えられる。遺物は大正六年の一錢硬貨、石筆が出土した(第32図53、第36図7)。

D面は1次調査区中央に位置していた(第4・10図、図版1・3)。褐色砂質土でしまりが強い平坦面であった。E・F面より新しく、1号石垣に伴う面で、2号石垣より古い面と考えられる。遺物は磁器ミニチュア碗、金属製指貫などが出土した(第19図60、第33図25)。

E面は1次調査区中央に位置していた(第4・10図、図版1・3)。上面は検出できなかった。下には5~30cm大的礫が深さ80cm位まで詰められていた。西側は一部浄化槽で搅乱を受けていた。D面より古く、F面より新しい、3号石垣に伴う面と考えられる。礫が詰まる上面からは磁器端反碗、行平鍋蓋、寛永通寶、煙管吸口などが出土した(第19図48、第25図54、第31図12、第33図20)。

F面は1次調査区中央に位置していた(第4・10図、図版1・3)。暗褐色砂質土でしまりが強い平坦面であった。D・E面より古く、1・4号石垣に伴うものと考えられる。東側は調査区外であった。遺物は埋設された土器甕の底部、端反碗、泥面子、土製人形、基石、賽子、寛永通寶、煙管、釘などが出土した(第21図96・108、第29図24、第30図7・9・13・14、第31図16、第32図33~35、第33図3・10、第34図57)。

G面は1次調査区中央に位置していた(第4・10図、図版1・3)。暗褐色砂質土でしまりが強い平坦面であった。焼土、炭化物が多く観察された。主に拳大の石列が鉤の手に曲がり並んでいた。西側は調査区外であった。E・F面より古く、5号石垣に伴うと考えられる。遺物量は比較的多く、磁器碗・蓋、陶器紅猪口・櫛鉢、土器火鉢、土製人形、寛永通寶、煙管、簪などが出土した(第17図19、第18図36・37、第19図46、第21図107、第23図9、第25図62、第27図88・94、第29図13・15、第30図10、第31図14・15・29、第32図36・58、第33図1・6・23)。

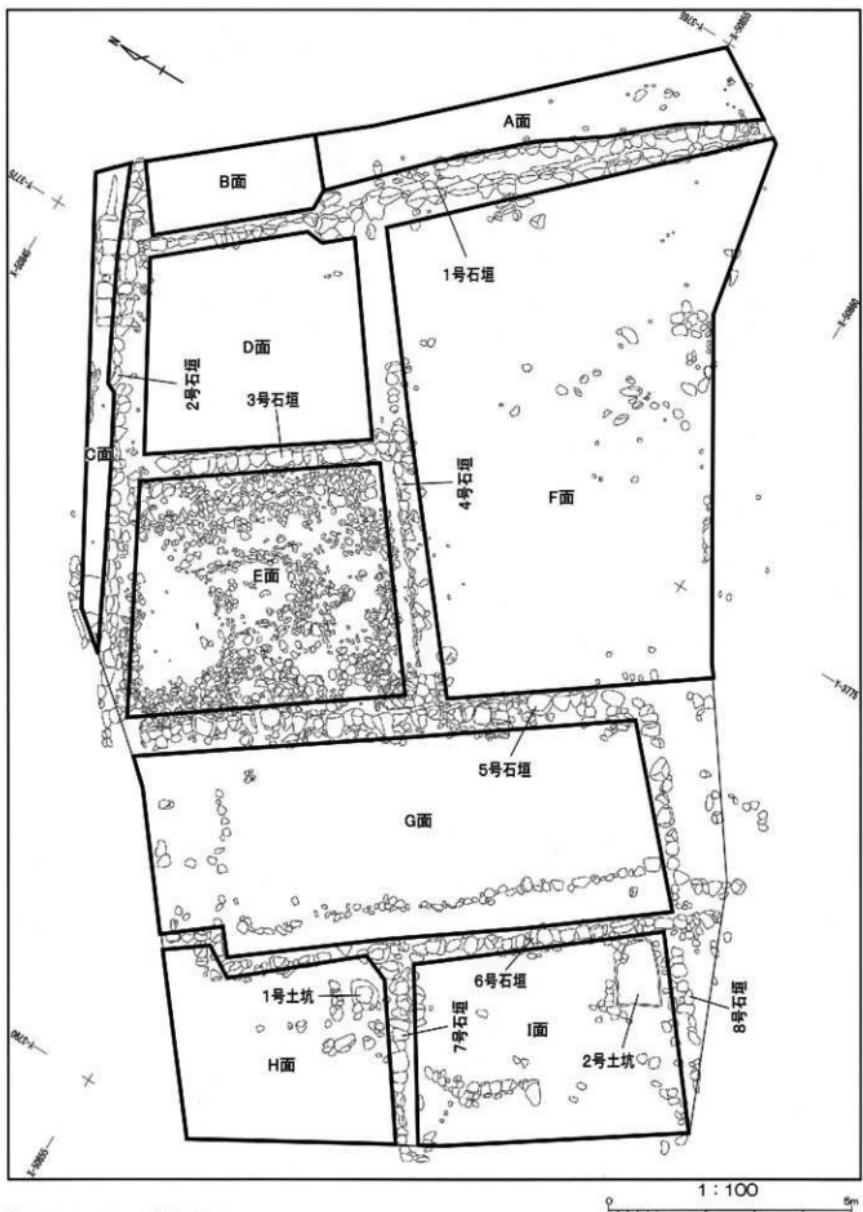
H面は1次調査区南西に位置していた(第4・10図、図版1・3)。暗褐色砂質土でしまりが強い。南西側半分は平坦面、北東側半分は南西から北東へ下る斜面であった。I面、6・7号石垣より古いと考えられる。西側、南側は調査区外であった。遺物は陶器碗・皿、寛永通寶などが出土した(第23図21、第24図49、第31図6・18)。北東隅で1号土坑が検出された。

I面は1次調査区中央に位置していた(第4・10図、図版1・4)。暗褐色砂質土でしまりが強い平坦面であった。焼土粒が少量認められた。6号石垣よりも古く7号石垣に伴い、H面よりも新しいと考えられる。東側、南側は調査区外であった。遺物は磁器碗、陶器皿、土器焜炉、寛永通寶、煙管などが出土した(第19図44、第24図44・46、第26図77・81、第28図9、第31図9・11・23・24、第32図37・52、第33図13)。北東隅で2号土坑が検出された。

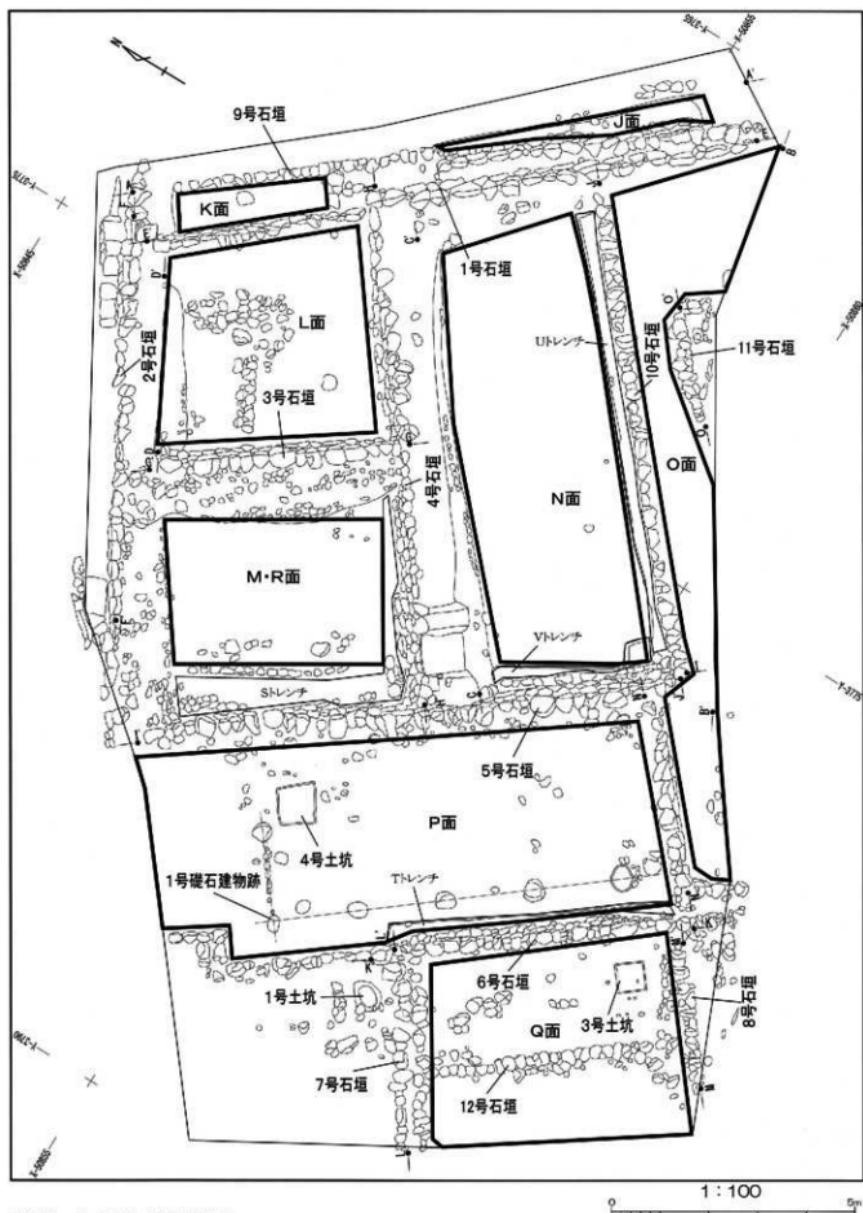
J面は1次調査区北東に位置していた(第5・10図、図版1・4)。灰黃褐色砂質土でしまりが強い平坦面であった。炭化粒・焼土粒が少量認められた。1号石垣に伴う面と考えられる。北側、東側は調査区外であった。遺物は磁器くらわんか碗・皿、陶器端反碗、土製模造貨が出土した(第17図2・14・16、第20図72、第23図6、第30図11)。

K面は1次調査区北東に位置していた(第5・10図、図版1・4)。灰黃褐色砂質土でしまりが非常に強い平坦面であった。1・9号石垣に伴う面と考えられた。北側は調査区外であった。遺物は磁器くらわんか皿、陶器灯明皿、古錢が出土した(第20図76、第24図39、第32図47)。

L面は1次調査区中央に位置していた(第5・10図、図版1・5)。褐色砂質土でしまりが強い平坦面であった。3・4号石垣に伴う面と考えられる。遺物は磁器広東碗、筒形碗・水滴、陶器灯明皿が出土した(第18図28・43、第19図55、第22図122、第24図31)。



第4図 A～I面 遺構配置図



第5図 J～R面 造構配置図

M面は1次調査区中央に位置していた(第5・10図、図版1・5)。暗褐色砂質土でしまりが強い平坦面であった。4・5号石垣に伴う面と考えられた。遺物は磁器鉢、陶器油徳利、土器火鉢、簪、石臼などが出土した(第20図79、第21図109、第25図65・67、第29図14、第33図21、第36図8)。

N面は1次調査区中央に位置していた(第5・10図、図版1・5)。暗褐色砂質土でしまりが強い平坦面であった。1・5・10号石垣に伴う面と考えられた。遺物量は比較的多く、磁器碗・皿・油壺、陶器碗・皿・鉢、泥面子、土製模造貨、賽子、寛永通寶などが出土した(第17図13、第18図24・29・32、第20図73・81、第22図115、第23図1・23・28、第24図32・40・42、第25図61、第26図84、第27図85・96、第30図2・4・12・15、第32図51、第35図4)。U・VトレーナーではN面下に黒褐色砂質土の面を確認した。

O面は1次調査区南東に位置していた(第5・10図、図版1・5)。暗褐色砂質土でしまりが強い平坦面であった。1・10号石垣に伴う面と考えられた。南東側は調査区外であった。遺物は磁器筒形碗、陶器香炉・徳利、寛永通寶などが出土した(第18図23・27・30、第25図58・66、第27図104、第31図32、第34図54)。

P面は1次調査区中央に位置していた(第5・10図、図版1・5)。オリーブ褐色砂質土でしまりが非常に強い平坦面であった。5・6号石垣に伴う面と考えられる。面上には焼土、炭化物が広がり、焼土・炭化物の下から1号礎石建物跡が検出された。焼失住居跡と考えられる。遺物量は比較的多く、磁器碗・皿・蓋、陶器皿・徳利・建水、土器焰熔、寛永通寶、雁首錢、煙管、簪などが出土した(第18図25、第20図75・88、第21図105、第22図129、第24図30・45、第25図56・71、第27図103、第28図1・7、第31図5・20・21・22・26・27・28、第32図48・50・54・57・59・60・61・62・63・67、第33図16・22、第34図26・28・33・39・49・64・66)。北側で4号土坑が検出された。

Q面は1次調査区南西に位置していた(第5・10図、図版1・6)。にぶい黄褐色砂質土でしまりが強い平坦面であった。12号石垣に伴う面と考えられる。南西側は調査区外であった。遺物は陶器碗、土器焰熔・火鉢、寛永通寶、雁首錢などが出土した(第23図11、第28図8、第29図16、第31図8・30、第32図46・55・56、第34図65)。東隅から3号土坑が検出された。

R面は1次調査区中央に位置していた(第5・10図、図版1・6)。褐色砂質土でしまりが強い平坦面であった。R面はM面下の層厚5cm位の砂層の下から検出された。4・5号石垣に伴う面と考えられる。石列が1列検出された。遺物は磁器碗、陶器碗・皿・仏飯器、泥面子、寛永通寶などが出土した(第19図54、第23図26、第24図43、第26図79、第30図3、第31図13・25・31、第32図39)。

2A面は2次調査区南東に位置していた(第6・11図、図版2・6)。暗褐色砂質土でしまりが強い平坦面であった。2-1号石垣に伴う面と考えられる。北側は調査区外であった。

2B面は2次調査区中央に位置していた(第6・11図、図版2・7)。にぶい黄褐色シルトで南西から北東へ下る斜面であった。面上には焼土層が広がり、斜面の下方で多くの遺物が検出された。南西側の延長面は検出できなかった。遺物量は比較的多く、磁器碗・皿、陶器皿・蓋・鉢・壺、土器瓦灯、硯などが出土した(第17図10、第19図69、第20図74・80・86・87、第21図92・93、第24図36、第25図53、第26図82、第27図92・99、第29図21、第34図45・52・55・62、第36図3)。

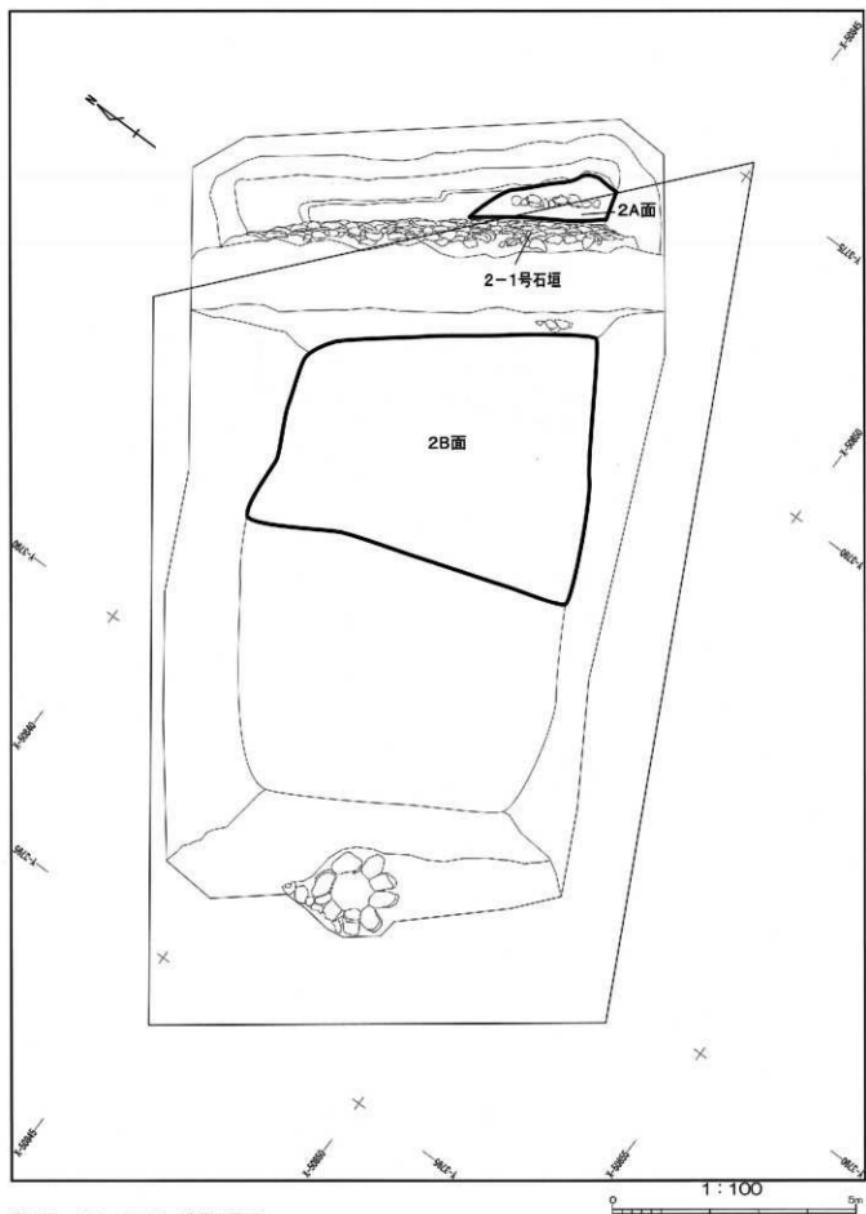
2C面は2次調査区南西に位置していた(第7・11図、図版2・7)。暗褐色砂質土でしまりが強い平坦面であった。面の大部分は擾乱のため検出できなかった。2-1号土坑・2-2号土坑が検出された。

2D面は2次調査区中央に位置していた(第7・11図、図版2・7)。暗褐色シルトでしまりが強い。北東側は平坦面、南西端は南西から北東へ下る斜面であった。遺物は陶器碗、砥石などが出土した(第22図126、第23図3、第34図32、第36図5)。

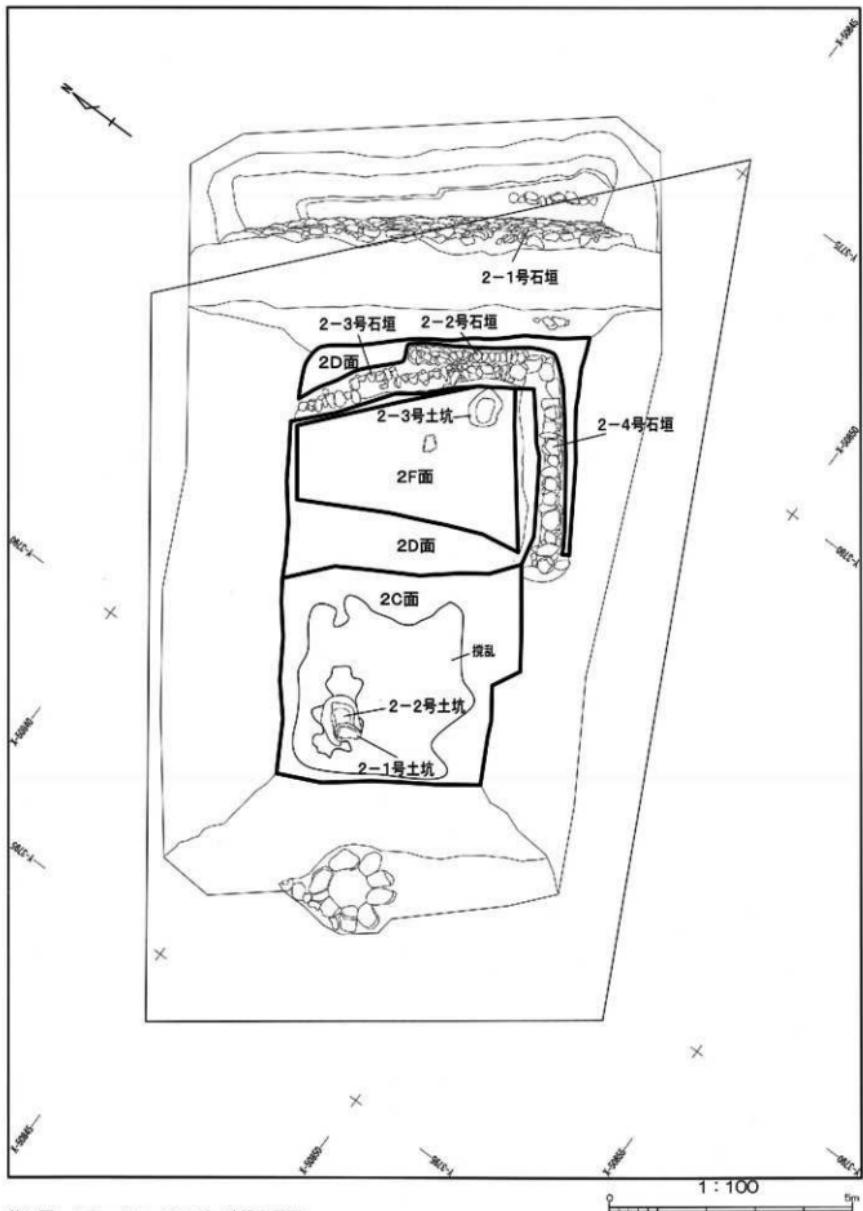
2E面は2次調査区南西に位置していた(第8・11図、図版2・7)。褐色シルトでしまりが強い平坦面であった。2-5号石垣に伴う面と考えられる。面中央部では直下に厚さ2~9cm位の細粒砂層が検出された。2E面の下からは永楽通寶・寛永通寶などが検出された(第31図1、第32図45)。西隅で2-4号土坑が検出された。

2F面は2次調査区中央に位置していた(第7・11図、図版2・8)。暗褐色シルトでしまりが強い平坦面であった。遺物は磁器皿などが出土した(第20図85)。中央部で礎石の可能性がある石が1点検出された。東隅では2-3号土坑が検出された。

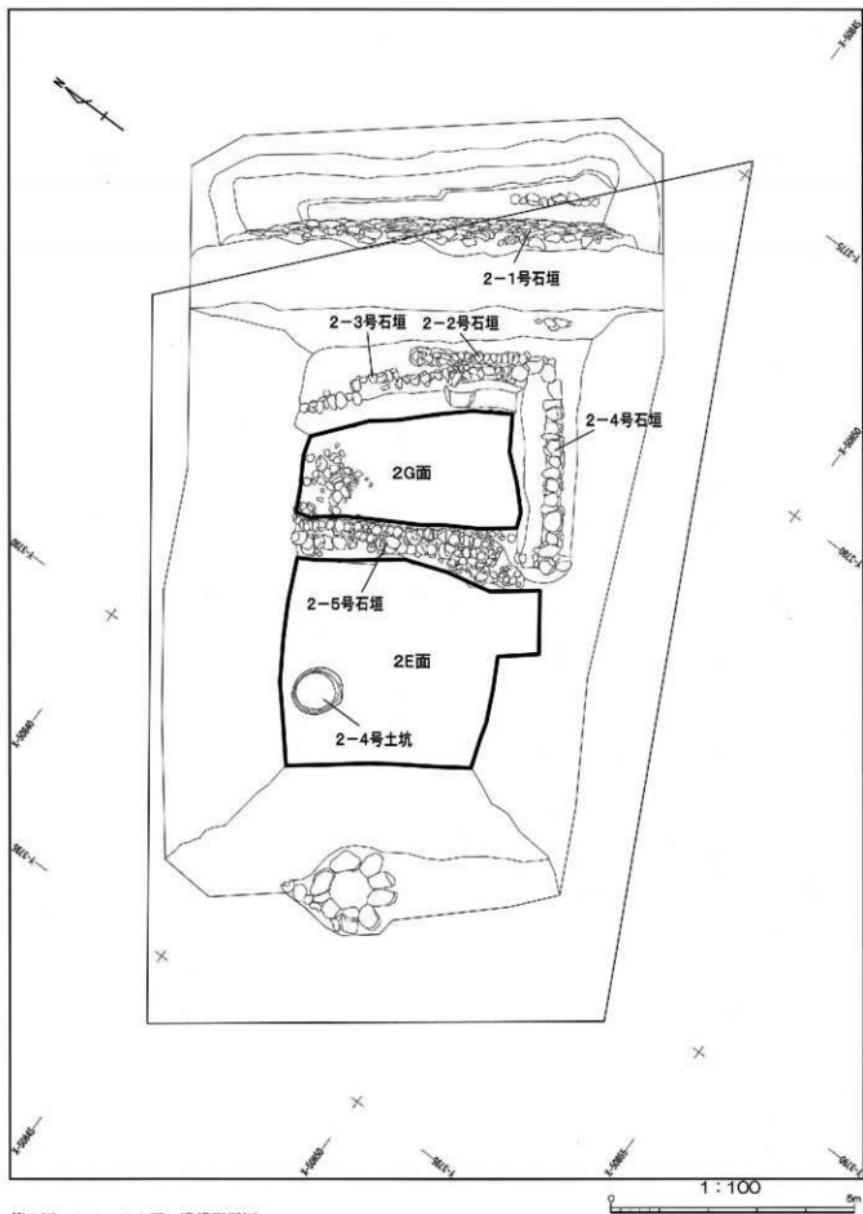
2G面は2次調査区中央に位置していた(第8・11図、図版2・8)。暗褐色シルトでしまりが強い平坦面であった。北側では礎集中部が検出された。遺物は磁器皿・鉢、陶器具器手碗・擂鉢が出土した(第21図110・111、第22図113)。



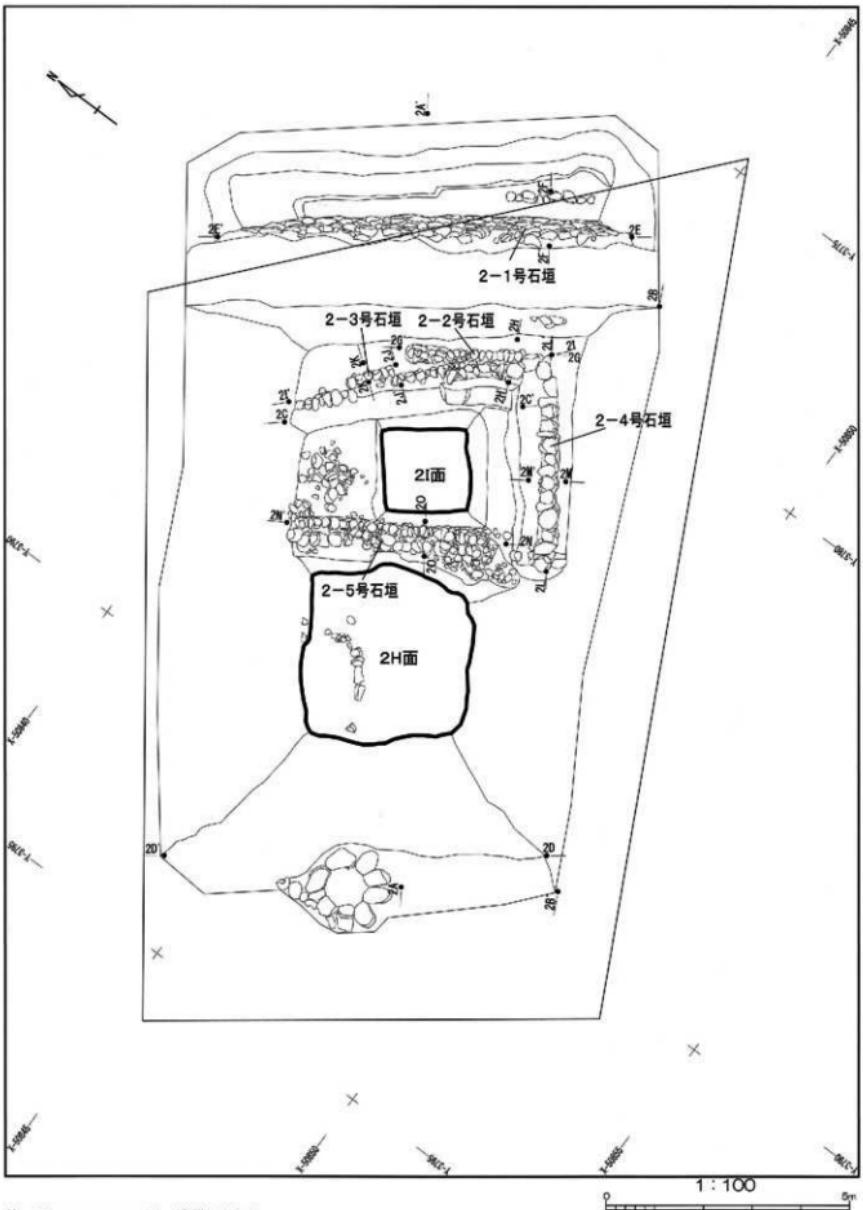
第6図 2A~2B面 造構配置図



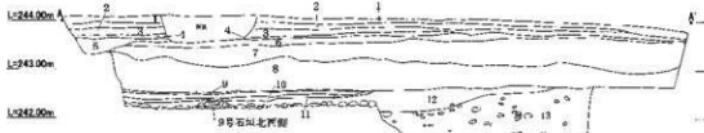
第7図 2C～2D・2F面 遺構配置図



第8図 2E・2G面 遺構配置図



第9図 2H～2I面 造構配置図



1次調査区北東壁

- 1 表土
- 2 淡褐色10YR4/1砂質土。しまり強。粘性なし。2~5cmの円礫を多量に含む。
- 3 にぶい(黄褐色10YR5/3砂質土。しまり強。粘性中。3cm位の円礫を多量に含む)。
- 4 淡褐色10YR4/1砂質土。しまり強。砂礫混入。
- 5 にぶい(黄褐色10YR5/3砂質土。しまり強。粘性弱。砂を多量。2~3cmの円礫を多量に含む)。
- 6 淡褐色10YR4/1砂質土。しまり強。粘性強。
- 7 黄褐色10YR3/3砂質土。しまり強。粘性中。
- 8 黑褐色10YR3/3砂質土。しまり強。粘性中。
- 9 にぶい(黄褐色10YR5/3砂質土。しまり強。粘性弱。砂を多量。10~15cmの円礫を多量に含む)。
- 10 黑褐色10YR3/3(砂質土。しまり強。粘性中。1mm以下砂を多量。1~3mmの砂礫を含む)。B面。
- 11 暗灰褐色10YR3/4砂質土。しまり強。粘性弱。1mm以下砂を多量。1mm以下砂礫を含む。
- 12 黑褐色10YR3/3(砂質土。しまり強。粘性中。1mm以下砂を多量。1~3mmの砂礫を含む)。
- 13 黑褐色10YR3/3(砂質土。しまり強。粘性弱。砂を多量。2~4cmの円礫80%、10~20cmの円礫20%)。



1次調査区南東壁

- 1 淡褐色10YR3/2砂質土。しまり強。粘性中。10~15cmの砂を多量。
- 2 淡褐色10YR3/2砂質土。しまり強。粘性中。1mm以下砂を多量。1~2mmの炭化物を含む。
- 3 淡褐色10YR4/1砂質土。しまり強。粘性弱。2~5cmの円礫を多量に含む。
- 4 黑褐色10YR3/1砂質土。しまり強。粘性弱。砂を多量。10~15cmの円礫30%、3~10cmの円礫20%。
- 5 上木道敷設時の痕跡。
- 6 下木道敷設時の痕跡。
- 7 下木道敷設時の痕跡。
- 8 暗灰褐色10YR3/3砂質土。しまり強。
- 9 暗褐色10YR3/3砂質土。しまり強。粘性中。10~15cmの砂を含む。
- 10 黄褐色10YR4/1砂質土。しまり強。粘性強。
- 11 暗褐色10YR3/3砂質土。しまり強。粘性中。2~5cmの泥上砂を多量。
- 12 暗褐色10YR3/3砂質土。しまり強。粘性弱。2~10cmの円礫を多量に含む。灰白色7.5YR8/2粘土ブロックを少量含む。
- 13 暗褐色10YR3/1砂質土。しまり強。粘性強。2~5mmの所で砂を多量。
- 14 暗褐色10YR3/3砂質土。しまり強。粘性強。2~10cmの円礫を多量に含む。
- 15 基褐色10YR3/1砂質土。しまり強。粘性弱。砂50%、1~2cmの円礫30%、3~10cmの円礫20%。
- 16 黑褐色10YR3/1砂質土。しまり強。粘性なし。砂50%、1~2cmの円礫30%、3~10cmの円礫20%。



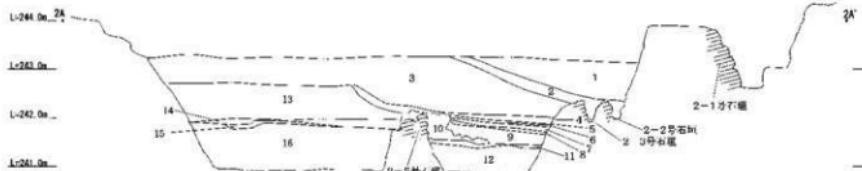
- 1 淡褐色10YR3/4砂質土。しまり強。粘性中。1m以下砂を多量。5mm位の砂を少量含む。F面。
- 2 暗褐色10YR4/2砂質土。しまり弱。粘性弱。灰白色7.5YR8/2粘土ブロックを少量含む。
- 3 黑褐色10YR3/1砂質土。しまり強。粘性弱。砂50%、1~2cmの円礫30%、3~10cmの円礫20%。
- 4 黑褐色10YR3/1砂質土。しまり強。粘性なし。5~20cmの円礫。



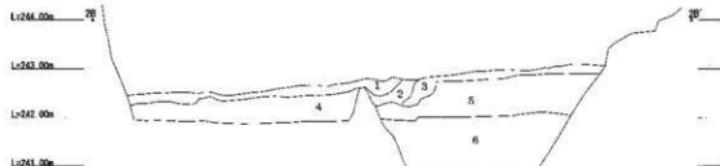
- 1 木道敷設路の埋土。
- 2 黑褐色10YR3/4砂質土。しまり弱。粘性弱。10~15cmの円礫少量。2~3cmの円礫少量を含む。
- 3 にぶい(黄褐色10YR5/4砂質土。しまり強。粘性中。10cm位の円礫少量を含む)。
- 4 灰褐色10YR4/2砂質土。しまり強。15~20cmの円礫。

1 : 100
0 5m

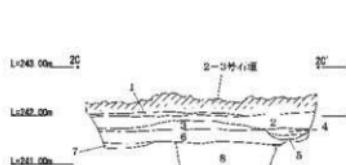
第10図 土層断面図（1）



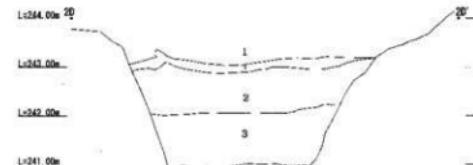
- 1 黄褐色10YR1/1厚層。しまりなし。粘性なし。
- 2 にじむ薄褐色10YR1/2シルト。L=241.0m付近、5~70mmの亜角礫30%を含む。
- 3 黄褐色10YR1/1厚層。しまりなし。粘性なし。2~50mmの砂10%、100~150mmの亜角礫2%を含む。
- 4 暗褐色10YR3/2シルト。しまりなし。粘性なし。40~60mmの角礫30%を含む。2D底。
- 5 細粒状10YR4/1シルト。しまりなし。粘性なし。
- 6 粗粒状10YR5/1シルト。しまりなし。粘性なし。0.1m位の細粒状層。
- 7 灰黃褐色10YR6/1シルト。しまりなし。粘性なし。5~20mmの亜角礫5%を含む。
- 8 粘粒状10YR1/1シルト。しまりなし。粘性中。5~20mmの亜角礫2%を含む。
- 9 黑褐色10YR1/1厚層。しまりなし。粘性なし。5mm位の小礫40%、50~100mmの亜角礫7%を含む。
- 10 黒褐色10YR1/1厚層。しまりなし。粘性なし。
- 11 黑褐色10YR1/1厚層。しまりなし。粘性なし。5~60mmの亜角礫を含む。2D底。
- 12 黑褐色10YR1/2厚層。しまりなし。粘性なし。5~10mmの亜角礫20%を含む。
- 13 黑褐色10YR1/2厚層。しまりなし。粘性なし。5~10mmの亜角礫20%を含む。
- 14 灰褐色10YR4/1シルト。しまりなし。粘性中。2~5mmの亜角礫40%を含む。2D底。
- 15 灰褐色10YR5/1シルト。しまりなし。粘性中。0.1m位の角礫層。
- 16 蒼褐色10YR5/3シルト。しまりなし。粘性なし。2~3mmの小角礫を40%、20~50mmの亜角礫30%、200~300mmの亜角礫10%を含む。



- 1 にじむ黄褐色10YR1/3シルト。しまりなし。粘性中。5~70mmの亜角礫50%を含む。
- 2 黃褐色10YR5/1厚層。しまりなし。粘性なし。50~100mmの亜角礫10%を含む。
- 3 灰褐色10YR3/2シルト。しまりなし。粘性なし。40~60mmの亜角礫20%を含む。
- 4 黃褐色10YR1/1厚層。しまりなし。粘性なし。5mm位の小礫20%、50~100mmの亜角礫10%を含む。
- 5 黃褐色10YR1/1厚層。しまりなし。粘性なし。5~10mmの亜角礫20%を含む。
- 6 細粒状10YR3/2厚層。しまりなし。粘性中。2~3mmの小角礫40%、20~50mmの亜角礫30%、200~300mmの亜角礫10%を含む。



- 1 暗褐色10YR3/2シルト。しまり強。粘性弱。40~60mmの亜角礫30%を含む。2D底。
- 2 黃褐色10YR4/2シルト。しまり中。粘性中。
- 3 黃褐色10YR3/2シルト。しまり強。粘性中。
- 4 黃褐色10YR1/1厚層。しまり強。粘性中。2~3mmの小角礫20%を含む。2D底。
- 5 壊土上10YR1/1シルト。しまり強。粘性中。
- 6 黃褐色10YR3/2厚層。しまり強。粘性中。
- 7 黃褐色10YR1/2厚層。しまり強。粘性中。
- 8 黃褐色10YR1/1厚層。しまり強。粘性中。
- 9 5mm位の小礫を40%、50~100mmの亜角礫7%を含む。
- 10 暗褐色10YR3/4シルト。しまり強。粘性中。3~5mmの亜角礫を50%を含む。2D底。
- 11 黑褐色10YR3/2厚層。しまり強。粘性中。
- 12 黑褐色10YR1/1厚層。しまり強。粘性中。



- 1 灰褐色10YR3/3シルト。しまり強。粘性弱。40~60mmの亜角礫20%を含む。
- 2 黑褐色10YR1/1厚層。しまりなし。粘性なし。5~10mmの亜角礫20%を含む。
- 3 黑褐色10YR3/3厚層。しまりなし。粘性なし。2~5mmの小角礫40%、20~50mmの亜角礫30%、200~300mmの亜角礫10%を含む。

1 : 100
0 5m

第11図 土層断面図 (2)

第23図16, 第27図93)。

2H面は2次調査区南西に位置していた(第9・11図, 図版2・8)。暗褐色砂質土で湿り気を帯びた平坦面であった。西側で石列が鈎の手に曲がり検出された。遺物は陶器皿などが出土した(第24図47)。

2I面は2次調査区中央に位置していた(第9・11図, 図版2・8)。暗褐色砂質土で湿り気を帯びた平坦面であった。

(2) 石垣(第4~9, 12~13)

1号石垣は北東に面し、A・B面とD・F面の境界に位置していた。確認できる範囲で長さは12.2m, 最大高1.6mでさらに下層に続いていた。北西側で2~1号石垣と連続すると考えられる。また、山梨県埋蔵文化財センター調査地区「4号石垣」に連続していると見られる。△面に接する部分は北西端で直行する4号石垣と連続していた。B面に接する部分はこの角から繼ぎ足されていた。石材は未加工の礫でA面に接する南東側に比べ、B面に接する北西側は小さな礫が使用されていた。南東側は1回の嵩上げが見られた。嵩上げは4号石垣の積み上げと同時期と考えられる。

2号石垣は北西に面し、C面とB・D・E面の境界に位置していた。確認できる範囲で長さ7.9m, 最大高0.5m。C面から積まれていた。北東側は山梨県埋蔵文化財センター調査地区に連続していると考えられる。石材は加工された礫を使用していた。

3号石垣は北東に面し、D面とE面の境界に位置していた。確認できる範囲で長さ4.7m, 最大高1.0m。L面から積まれていた。北東側で4号石垣と接していた。石材は未加工の礫を使用していた。

4号石垣は北西に面し、D・E面とF面の境界に位置していた。長さ10.3m, 最大高1.0mであった。R面から積まれていた。北東端で1号石垣と接していた。石材は未加工の礫を使用していた。

5号石垣は鈎の手に曲がっていた。E面とF面の境界に位置していた。北東に面する部分は、確認できる範囲で長さ10.9m, 最大高で1.5m。Vトレチで確認された面から積まれていた。P面からの1回の嵩上げが考えられる。南東端で10号石垣と接していた。南東に面する部分は長さ3.8m, 最大高0.5mであった。積み上げは北側の嵩上げ時と同時に継ぎ足して行なわれたと考えられる。石材は未加工の礫が使用されていた。

6号石垣は北東に面し、G面とI面の境界に位置していた。確認できる範囲で長さ6.1m, 最大高0.9m。P面より下から積まれていた。石材は未加工の礫を使用していた。北西端で7号石垣と接していた。また、G面とH面の境界に位置する1段の石列と接していた。石列はG面に設置されていた。

7号石垣は南東に面し、H面とI面の境界に位置していた。確認できる範囲で長さ4.0m, 最大高0.3m。北東端で6号石垣、中央部で12号石垣と接していた。石材は未加工の礫を使用していた。

8号石垣は南東に面し、I面の境界に位置していた。確認できる範囲で長さ2.5m, 最大高0.3m。I面から積まれていた。石材は未加工の礫を使用していた。

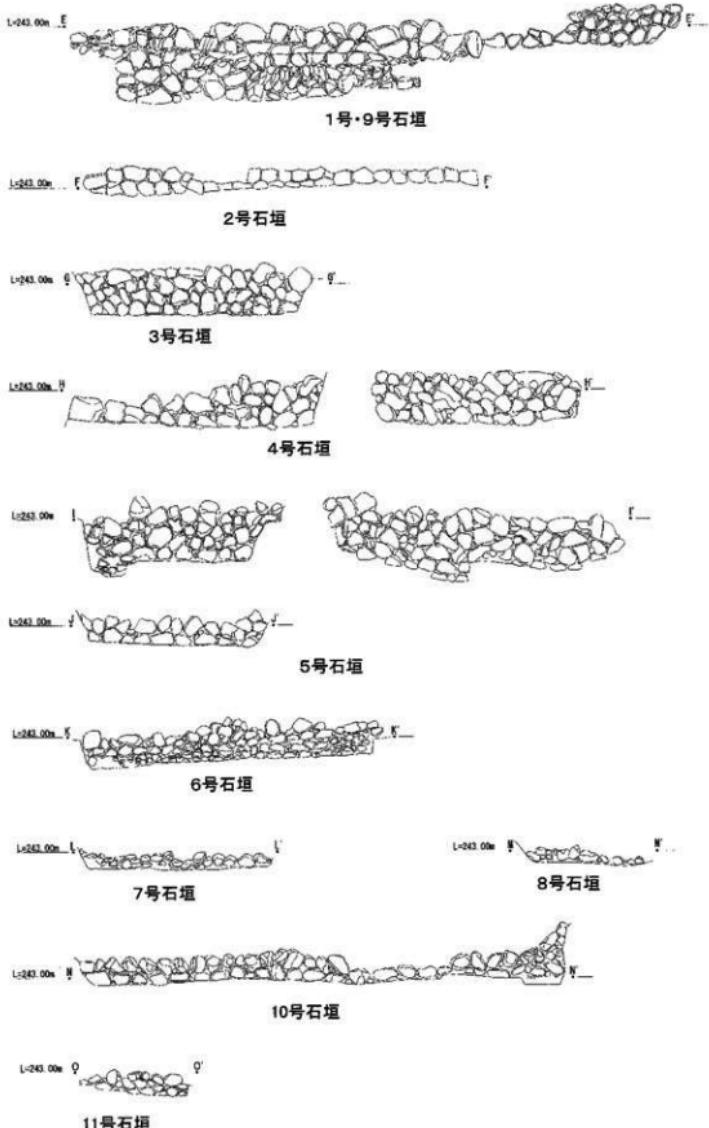
9号石垣は北東に面し、K面の境界に位置していた。確認できる範囲で長さ8.6m, 最大高0.9mでさらに下層に続いていた。南東側で1号石垣の前列として接し、北西に行くに従い分離し、空間地がK面を形成していた。石材は未加工の礫を使用していた。

10号石垣は北西に面し、N面とO面の境界に位置していた。長さ9.8m, 最大高0.7m。N面から積まれていた。南西側で5号石垣と連続していた。北東側の1号石垣との連続は確認できなかった。石材は未加工の石を使用していた。

11号石垣は南東に面していた。鈎の手に曲がり調査区外へと延びていた。確認できる範囲で長さ2.3m, 最大高で0.5m。O面から積まれていた。山梨県埋蔵文化財センター調査地区「4号縦坑状石組み遺構」に連続していると考えられる。石材は未加工の礫を使用していた。

12号石垣は北東に面し、Q面の境界に位置していた。東西方向で4.5m, 最大高0.3m。Q面から積まれていた。北西側で7号石垣と接していた。石材は未加工の礫を使用していた。

2~1号石垣は北東に面し、2A面の境界に位置していた。確認できる範囲で長さ8.0m, 最大高1.4mでさらに下層に続いていた。南東側で1号石垣と連続すると考えられる。北西側では山梨県埋蔵文化財センター調査地区に連続していた。石材は未加工の礫を使用していた。



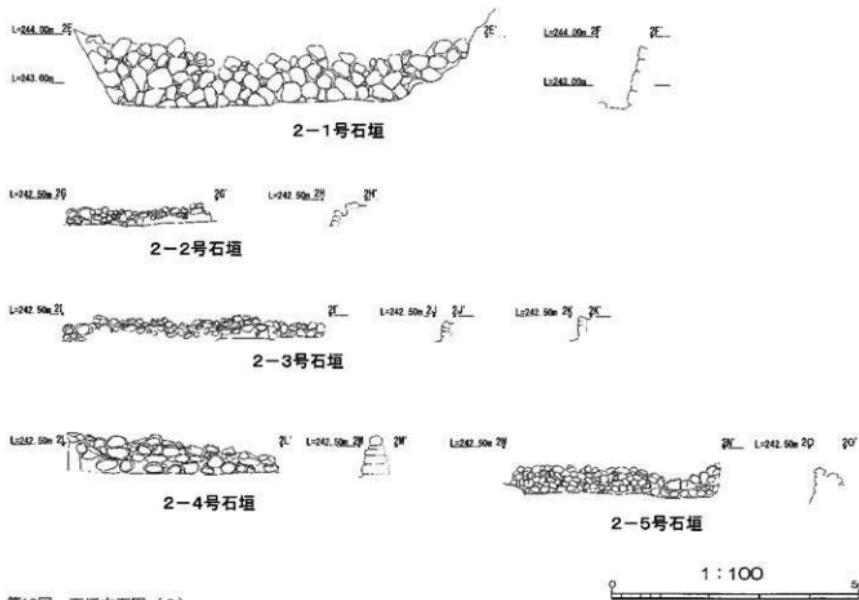
第12図 石垣立面図（1）

1 : 100
0 5m

2-3号石垣は北東に面していた。確認できる範囲で長さ5.3m、最大高0.5m。2D面から積まれていた。南東側で平行する2-2号石垣、直行する2-4号石垣と接していた。北西側は山梨県埋蔵文化財センター調査地区に連続していると思われる。石材は未加工の礫を使用していた。2-4号石垣とは使用する石材の大きさが異なるため別時期の積み上げと考えられる。

2-4号石垣は南東に面していた。長さ4.1m、最大高0.8m。2D面から積まれていた。北東側で2-2号石垣・2-3号石垣と接していた。石材は未加工の礫を使用していた。一部に石臼を転用して石垣石材として使用していた(第36図10-11)。

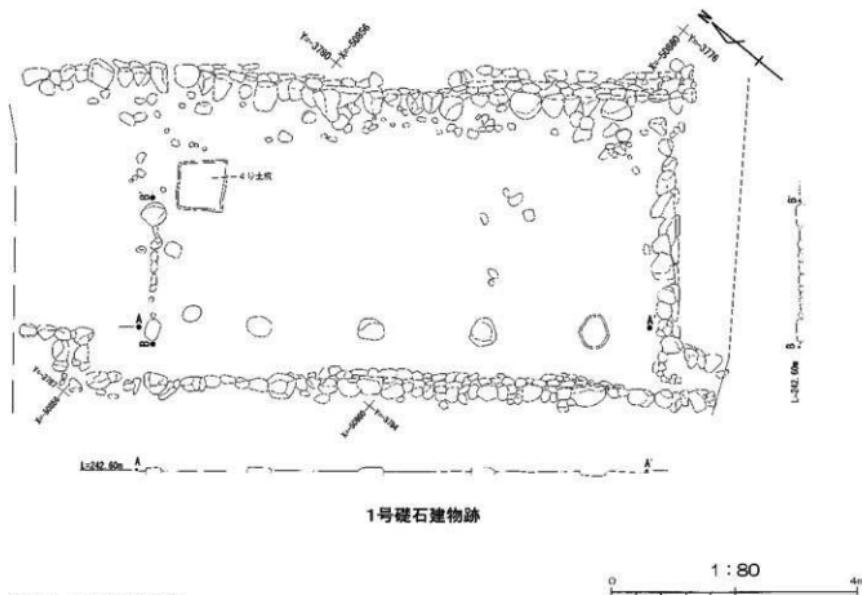
2-5号石垣は北東に面し、2E面と2G面の境界に位置していた。確認できる範囲で長さ4.3m、最大高0.6mであった。2列が平行して2G面から積まれていた。北西側は山梨県埋蔵文化財センター調査地区に連続していると思われる。石材は未加工の礫を使用していた。



第13図 石垣立面図(2)

(3) 磯石建物跡（第14図、図版5）

1号磯石建物跡はP面上に構築されていた。南端の磯石が抜き取られたと考えられる穴を含めて、梁行1間、桁行4間分の磯石跡が確認された。規模は梁行1.8m、桁行7.2mであった。磯石は焼土、炭化物に覆われていた。建物は火災により焼失したと考えられる。遺物量は比較的多く、磁器碗・皿・蓋、陶器皿・徳利・建水、土器熔渣、寛永通寶、雁首鉢、煙管、簪などが出土した。被熱した遺物も多く観察された。北側で4号土坑が検出された。



第14図 1号磯石建物跡

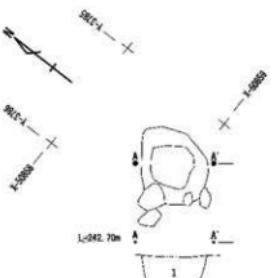
(4) 土坑（第15・16図、図版4・6～8）

1号土坑はH面を掘り込んだ状態で検出された。規模は長軸が0.7m、短軸0.6m、壁高29cmであった。平面形は円形で、壁は急角度に立ち上がっていた。底面はほぼ平坦であった。

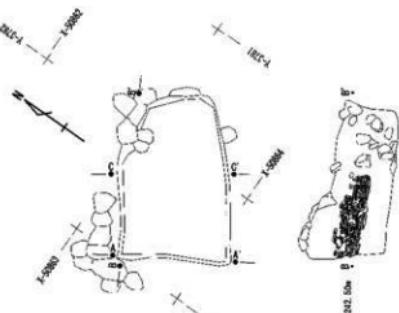
2号土坑はI面を掘り込んだ状態で検出された。規模は長軸が1.3m、短軸0.9m、壁高58cmであった。3号土坑を切っていた。平面形は長方形で、壁は垂直に立ち上がっていた。壁面の一部に木枠が残存していた。底面は平坦であった。底面で白色物質が確認されたことから廁の便槽と推定される。遺物は陶器常滑窯・小碗、釘が出土した（第23図29、第34図43）。

3号土坑はQ面に位置していた。規模は長軸が0.6m、短軸0.6m、壁高6cmであった。2号土坑に切られ、僅かに底部のみ遺存していた。上部はQ面からの掘り込みと思われる。平面形は正方形で、壁は垂直に立ち上がると考えられる。底面は平坦であった。2号土坑以前に設置されていた廁便槽跡の可能性が考えられる。遺物は煙管、釘などが出土地（第33図2・4、第34図38・40・41・42・44・61）。

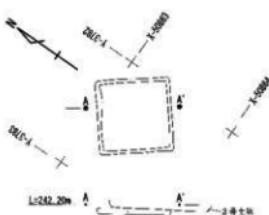
4号土坑は、P面上に構築されていた1号磯石建物跡の磯石列内側の北側に位置し、P面を掘り込んだ状態で検出された。規模は長軸が0.8m、短軸0.8m、壁高14cmであった。平面形は長方形で、壁は垂直に立ち上がっていた。



1 黒褐色10YR3/1砂礫。し土り鉄。粘性なし。1~10cm層を40%含む。
1号土坑



1 黒褐色10YR3/1砂。し土り鉄。粘性なし。3~10cm層を少許含む。
2号土坑

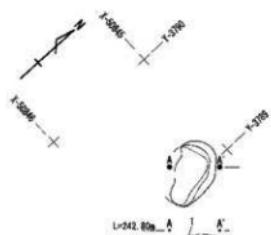


1 黑褐色10YR3/1砂。し土り鉄。粘性なし。
3号土坑



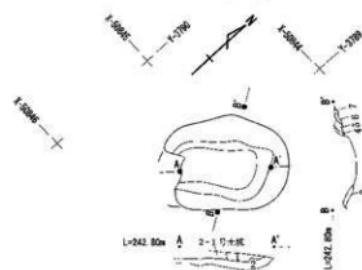
1 細褐色7.5YR7/1シルト。し土り鉄。粘性あり。焼上板を含む。
2 黒褐色10YR2/2シルト。し土り鉄。粘性あり。
3 黄土。し土り鉄。粘性あり。

4号土坑



1 明褐色7.5YR7/2シルト。し土り鉄。粘性有。
2 墓地色7.5YR3/1シルト。し土り鉄。粘性有。

2-1号土坑



1 明褐色7.5YR7/2シルト。し土り鉄。粘性有。
2 墓地色7.5YR3/1シルト。し土り鉄。粘性有。
3 灰褐色7.5YR5/1シルト。し土り鉄。粘性有。
4 利根褐色2.5YR5/8粘土。し土り鉄。粘性有。

2-2号土坑

1:40

0 2m

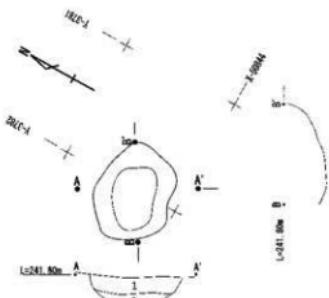
底面は平坦で、底部には灰が堆積していた。灰層上面で完形の土瓶、煙管（雁首・吸口）、寛永通寶などが出土した（第26図73、第31図2、第32図38、第33図7・17、第34図63）。家屋焼失時に遭棄された炉跡と推定される。

2-1号土坑はC面を掘り込んだ状態で検出された。残存する範囲で規模は長軸が0.5m、短軸0.26m、壁高4cmであった。南西側は搅乱により損壊していた。2-2号土坑を切っていた。平面形は長方形で、壁は緩やかに立ち上がっていた。底面は緩やかに傾斜していた。シルト壁内に灰層が充填されていた。炉跡と推定される。

2-2号土坑はC面を掘り込んだ状態で検出された。規模は長軸が0.85m、短軸0.45m、壁高8cmであった。南西側は2-1号土坑に切られていた。平面形は長方形で、壁は緩やかに立ち上がっていた。底面は平坦であった。粘土壁内に灰層が充填されていた。炉跡と推定される。土層断面観察から1回の作り替えが考えられた。遺物は釘が出土した（第34図51）。

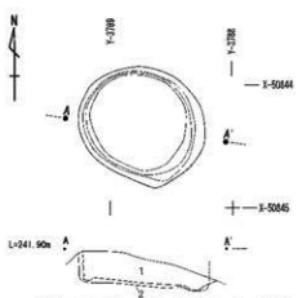
2-3号土坑はF面を掘り込んだ状態で検出された。規模は長軸が0.8m、短軸0.7m、壁高24cmであった。平面形は橢円形で、壁はやや緩やかに立ち上がっていた。底面は傾斜していた。覆土には灰層が確認された。炉跡と推定される。灰層上面から煙管吸口、陶器碗破片が出土した（第23図13、第33図12、第34図56）。

2-4号土坑はE面下を掘り込んだ状態で検出された。規模は長軸が1.05m、短軸1.0m、壁高26cmであった。上部は確認できていないが、E面から掘り込まれていたと推定される。平面形は円形であった。壁は粘土で垂直に立ち上がり、桶のたがの跡の様な凹凸が観察できた。底面は輪郭が一段深まり内側は平坦であった。砂疊層の地山に粘土棒をはめて桶状のものを埋設したと推測される。



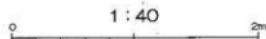
1 塗褐色10YR8/4シルトト、主の粘土性中、5~10mmの炭化物1%を含む。
2 塗褐色10YR8/2Hc、しわり粘土性中。

2-3号土坑



2-4号土坑

第16図 土坑(2)



2 遺物

遺物は磁器、陶器、土器、土製品、骨角製品、占錢類、金属製品、瓦、石製品などが出土した。

磁器はくらわんか碗（第17図1～11）、丸碗（第17図12～16）、小丸碗（第17図17～22、第19図64～67・70）、筒形碗（第18図23～40）、広東碗（第18図41～43）、端反碗（第19図44～54）、簡丸形碗（第19図55～59）、ミニチュア（第19図60～61、第22図128）、坏（第19図62～63・66・71、第21図96～98）、くらわんか皿（第20図72～76）、丸皿（第20図77～86・88、第21図89～90・92～95・110）、变形皿（第20図87、第21図91）、蓋物蓋（第21図99・105）、端反碗蓋（第21図100～102）、碗蓋（第21図103～104）、壺蓋（第21図106～107）、八角鉢（第21図108～109）、鉢（第19図68、第21図111）、香炉（第22図112）、油壺（第22図114～115）、瓶（第22図116～119・125）仏瓶器（第22図120）、水滴（第22図121～124）、底部に焼錆印のあるもの（第18図42、第19図46、第27図103～104）などが出土した。

陶器は丸碗（第23図3～4・10～14・17～21）、吳器手碗（第23図15～16）、小丸碗（第23図8）、筒形碗（第23図2・9）、陶胎染付広東碗（第23図1）、端反碗（第23図5～6）、碗（第26図77～79）、灯明皿（第24図31～38）、灯明受皿（第24図39～45）、丸皿（第24図30・47・49～50、第27図85）、壺蓋（第25図53）、行平鍋蓋（第25図54）、蓋（第25図51～52）、建水（第25図56）、香炉（第25図57～58）、火入れ（第25図60）、仏飯器（第23図26～27、第25図61）、紅猪口（第25図62）、鉄漿壺（第25図63）、壺（第25図64）、油德利（第25図65）、燭德利（第25図69）、德利（第25図66～68・71～72）、瓶（第25図70）、上瓶（第26図73～74）、行平鍋（第26図75・80）、片口鉢（第26図76）、捏鉢（第27図86・96）、搾鉢（第27図87～94）、火鉢（第27図95）、鉢（第26図82～84、第27図86・95～97）、甕（第27図98～100）、擂鉢転用磁石（第27図101～102）、底部に墨書のあるもの（第23図3、第26図83、第27図103～104）などが出土した。

土器は焰燈（第28図1～8）、焜炉（第28図9）、五徳（第28図10）、日皿（第28図11～12）、火鉢（第29図13～17・19）、瓦灯（第29図21）、輪羽口（第29図22）、甕（第29図24）、外面に陽刻があるもの（第29図18～19）、内面に鉛釉が施されたもの（第29図23）などが出土した。

上製品は泥面子（第30図1～8、図版9～1～8）、土製人形（第30図9～10、図版9～9～10）、土製模造貨（第30図11～12、図版9～11～13）、基石（第30図13、図版9～14）などが出土した。

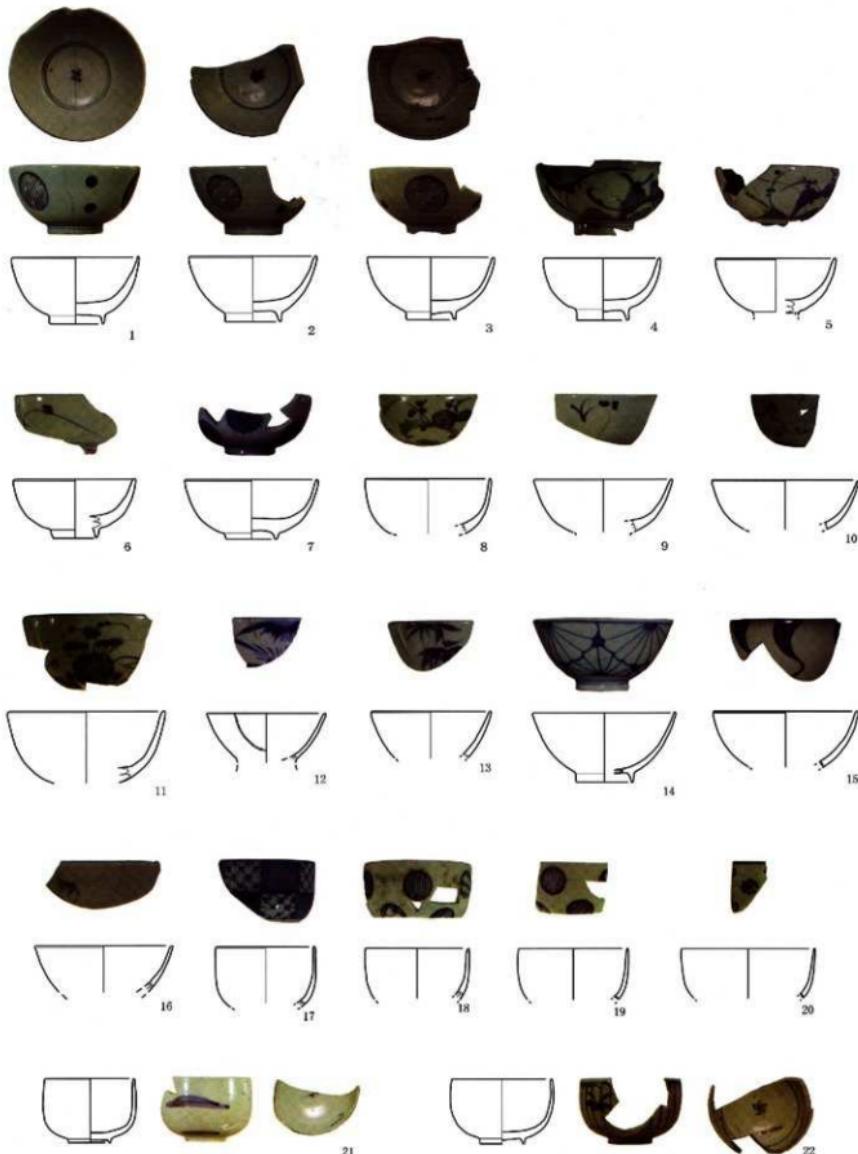
骨角製品は賽子（第30図14～15、図版9～15、10～1～3）が出土した。

古錢類は永楽通宝（第31図1）、寛永通宝（第31図2～32、第32図33～51）、雁首錢（第32図54～67）、近代硬貨（第32図52～53）などが出土した。

金属製品は煙管雁首（第33図1～11、図版10～4～14）、煙管吸口（第33図12～20、図版10～15、11～1～9）、簪（第33図21～23、図版11～10～12）、鉄（第33図24、図版11～13）、指貫（第33図25、図版11～14）、釘（第34図26～58、図版11～15、12～1～15、13～1～15、14～1～2）、鍵（第34図59～61、図版14～3～5）、碗形鉄滓（第34図67～68、図版14～11～12）などが出土した。

瓦類は赤瓦帷板瓦（第35図1、図版14～13）、赤瓦袖瓦（第35図2、図版14～14）、赤瓦棟瓦（第35図3、図版14～15）、軒瓦（第35図4、図版15～1）、袖瓦（第35図5、図版15～2）、棟瓦（第35図6～7、図版15～3～4）が出土した。

石製品は硯（第36図2～3、図版15～6～7）、磁石（第36図4～5、図版15～8～9）、基石砥石（第36～6、図版15～10）、石筆（第36～7、図版15～11）、石臼（第36図8～10、図版15～12～14）などが出土した。

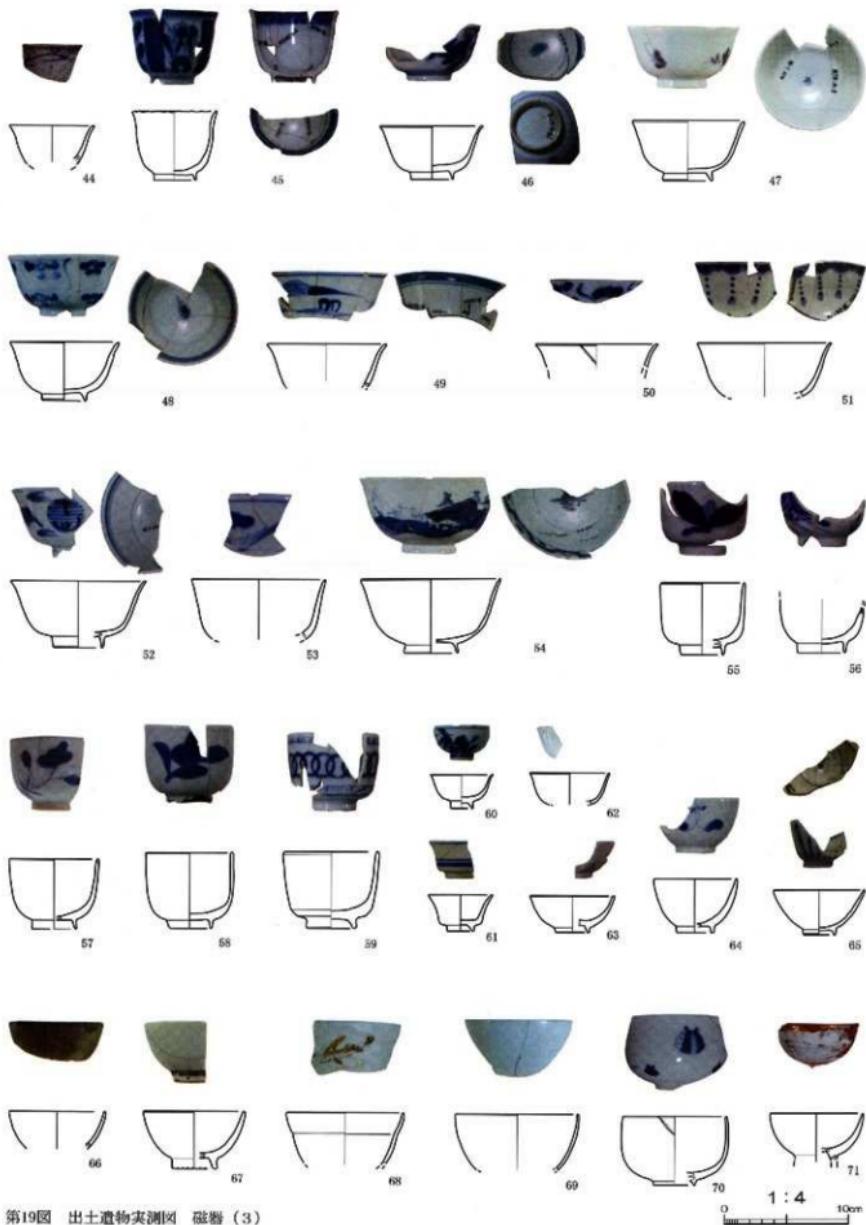


第17図 出土遺物実測図 磁器（1）

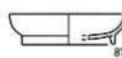
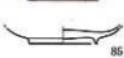
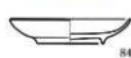
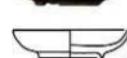
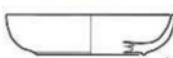
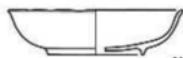
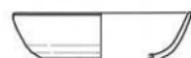
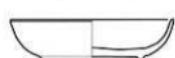
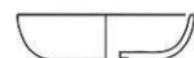
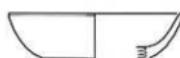
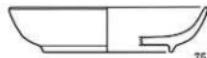
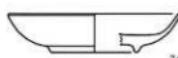
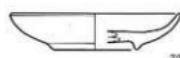
1 : 4
10cm



第18図 出土遺物実測図 磁器（2）



第19図 出土遺物実測図 磁器 (3)

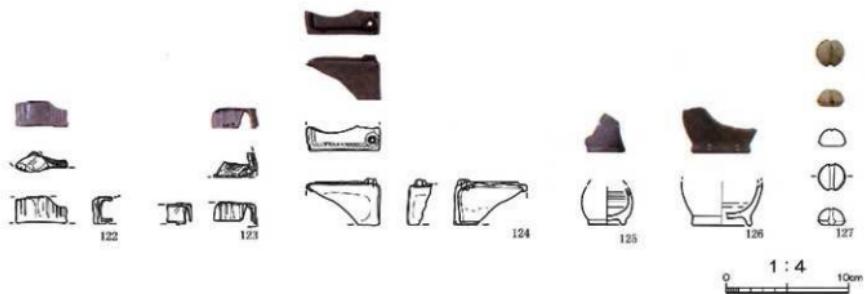
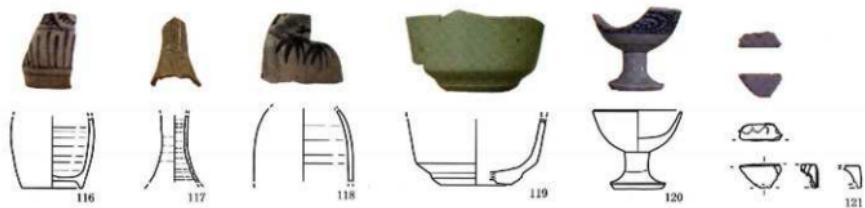
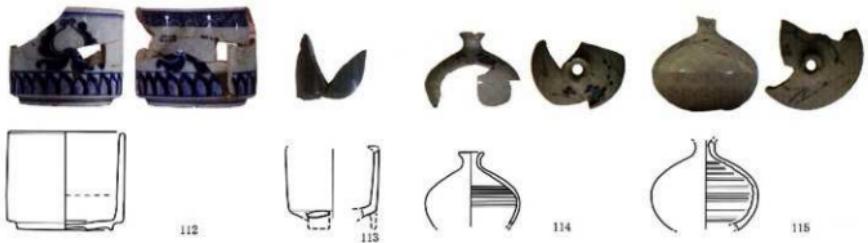


第20図 出土遺物実測図 磁器（4）

1 : 4
0 10cm

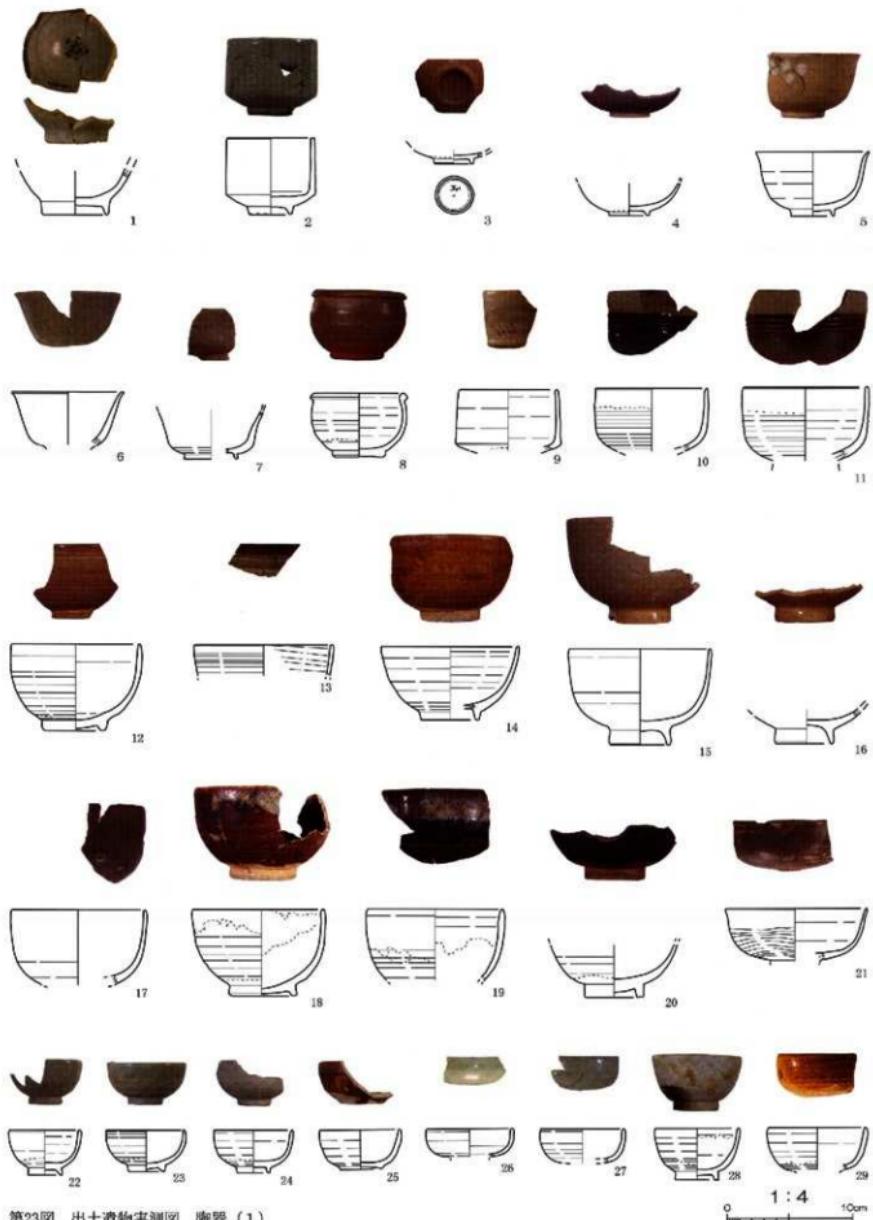


第21図 出土遺物実測図 器器(5)

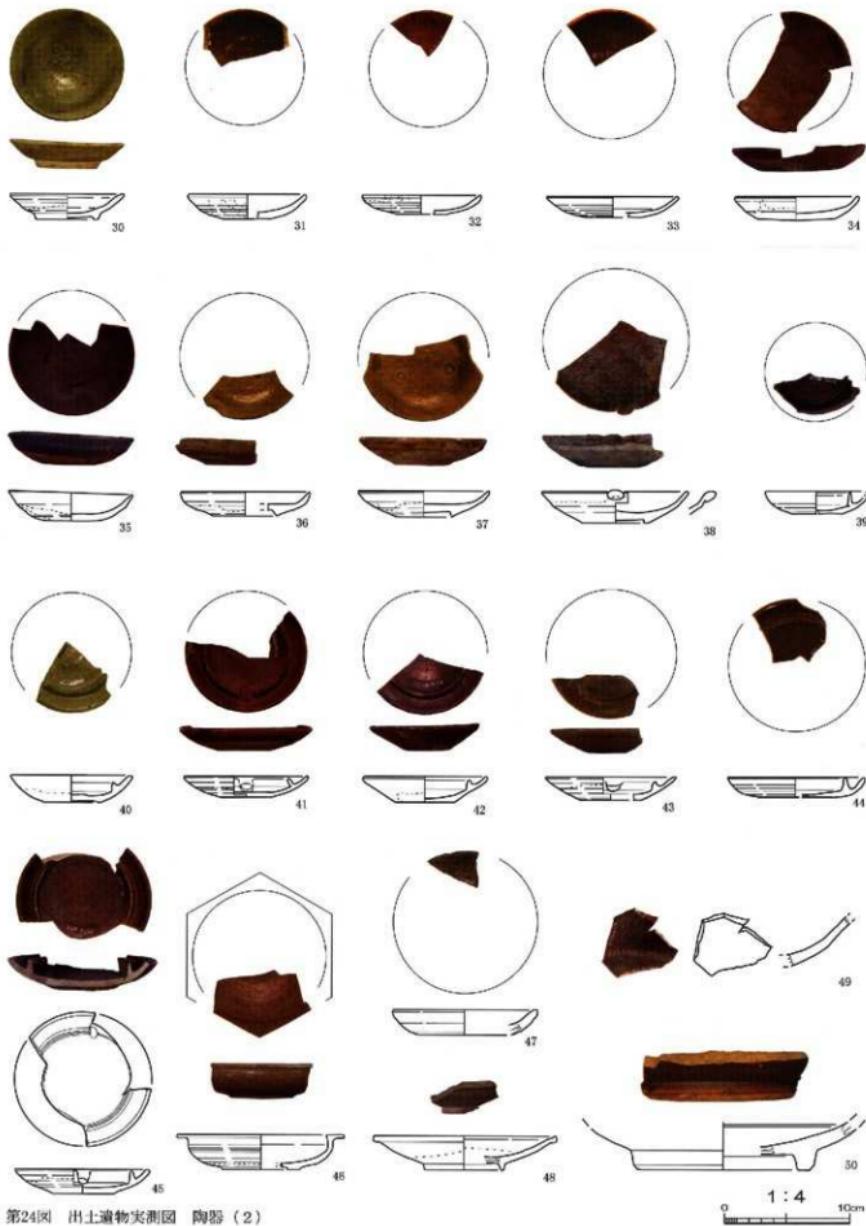


第22図 出土遺物実測図 磁器 (6)





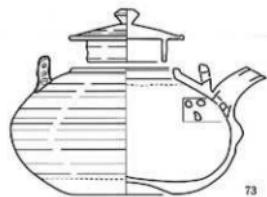
第23図 出土遺物実測図 陶器(1)



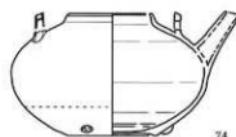
第24図 出土遺物実測図 陶器（2）



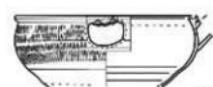
第25図 出土遺物実測図 車器(3)



73



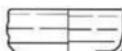
74



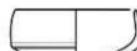
75



76



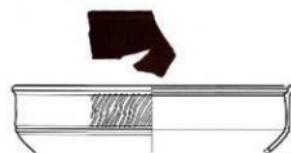
77



78



79



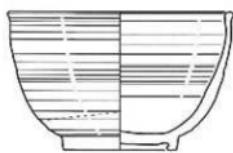
80



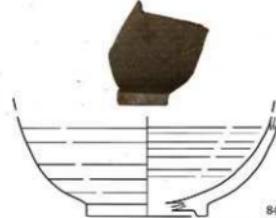
81



82



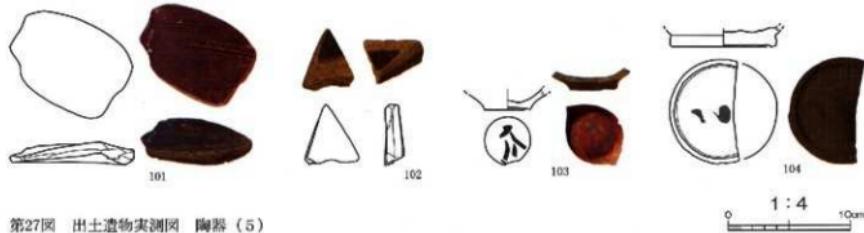
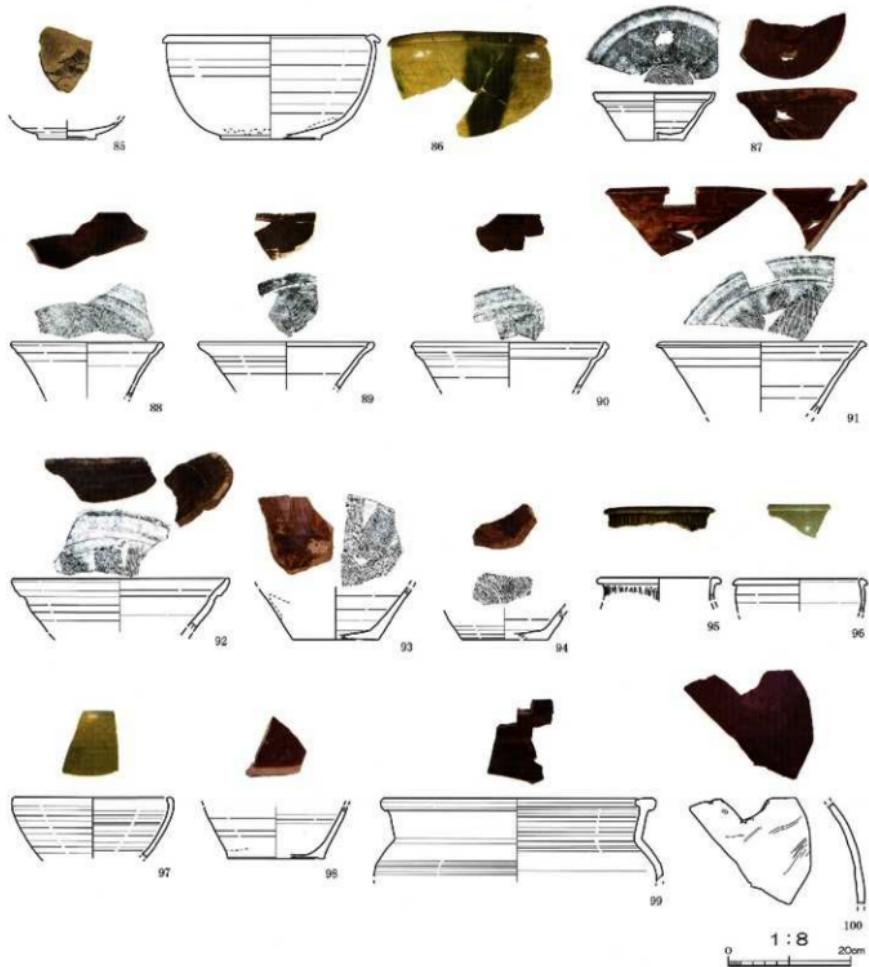
83



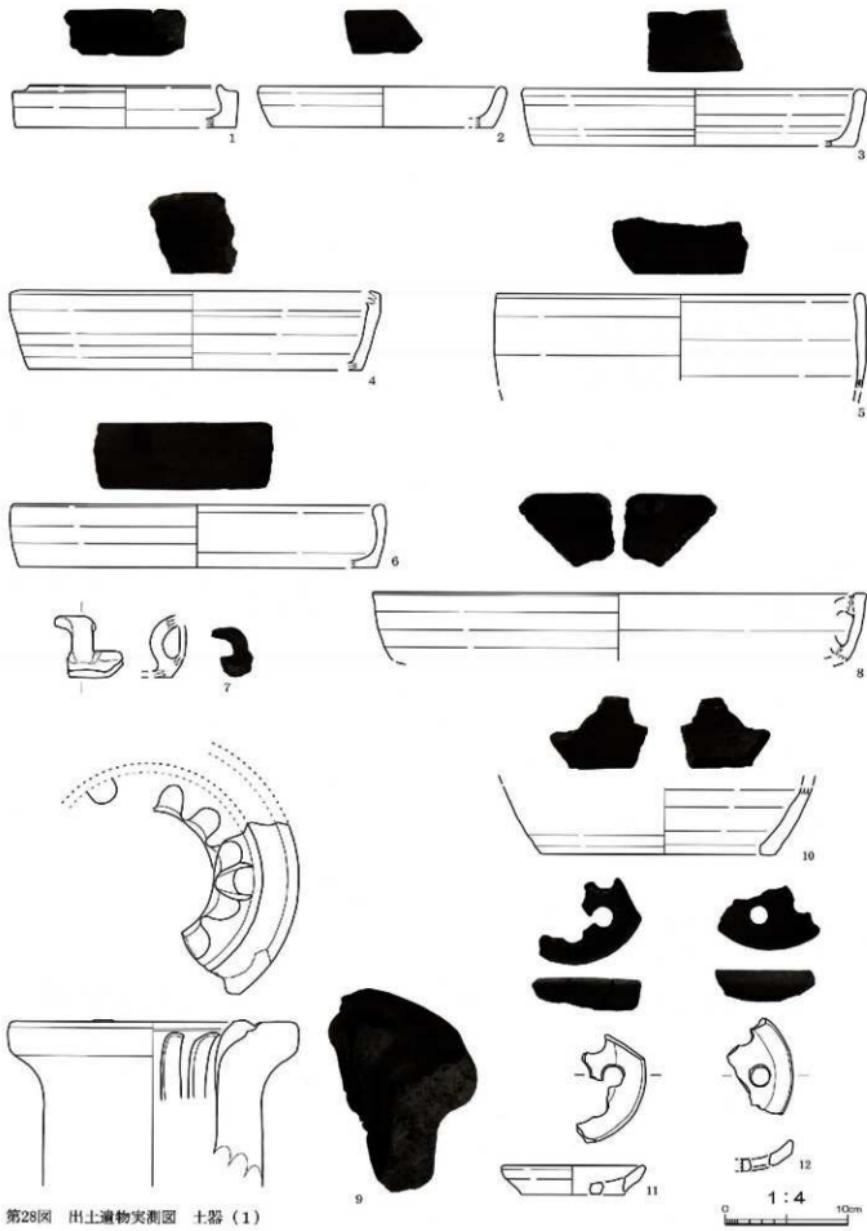
84

1 : 4 10cm

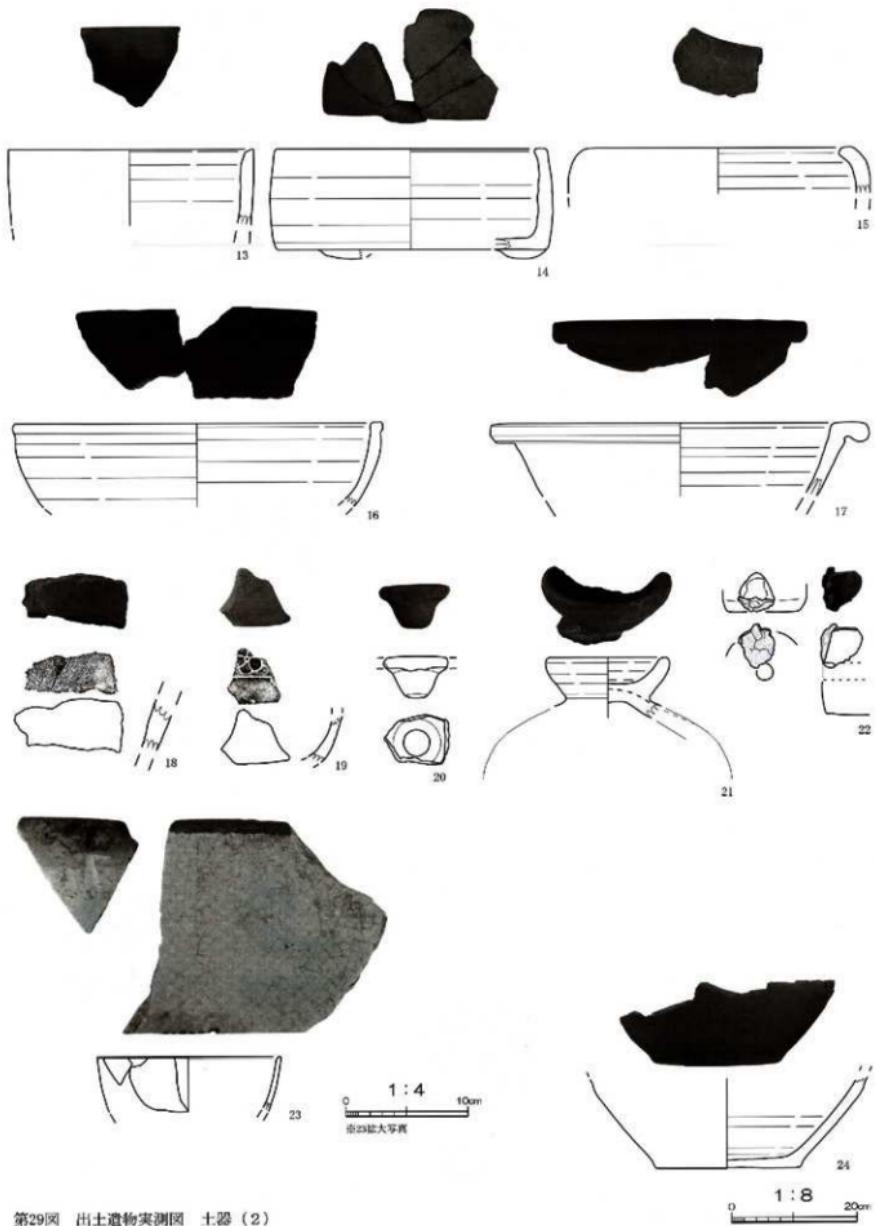
第26図 出土遺物実測図 陶器 (4)



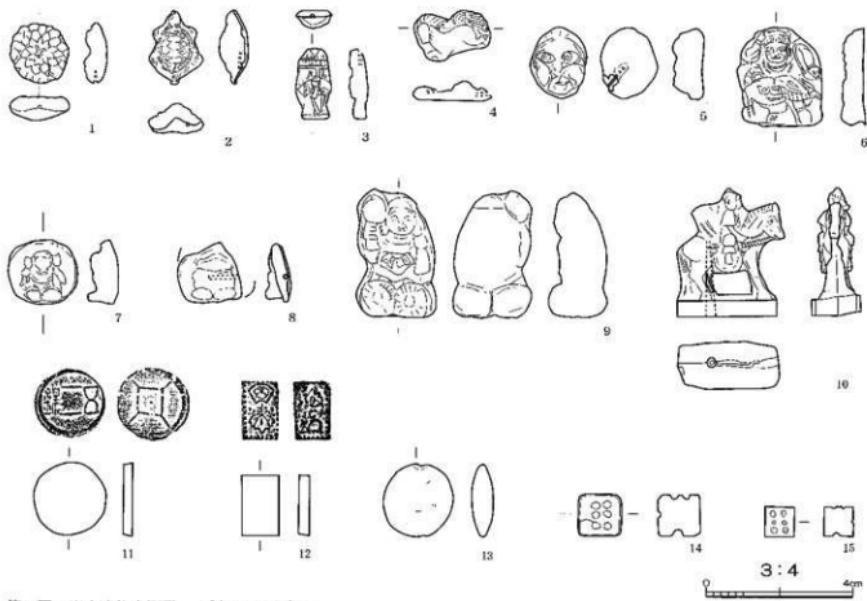
第27圖 出土遺物實測圖 陶器 (5)



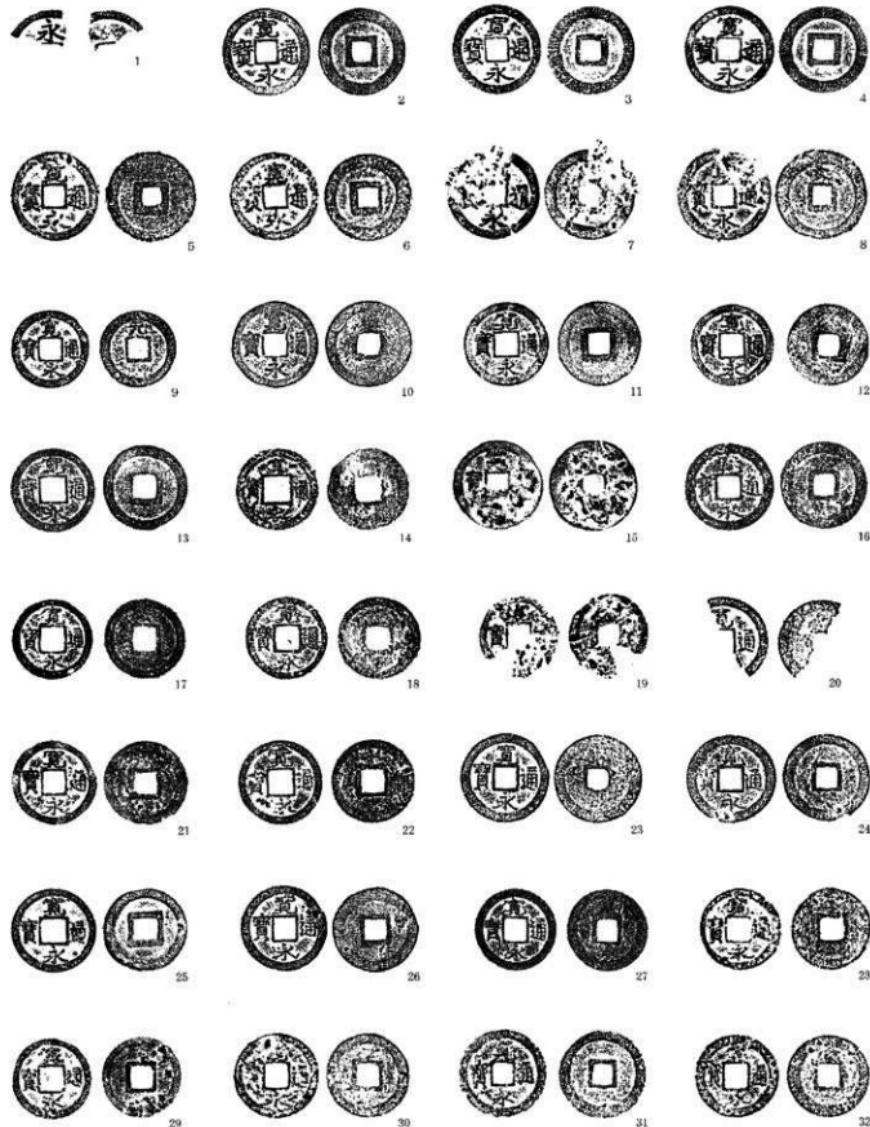
第28図 出土遺物実測図 土器 (1)



第29図 出土遺物実測図 土器（2）

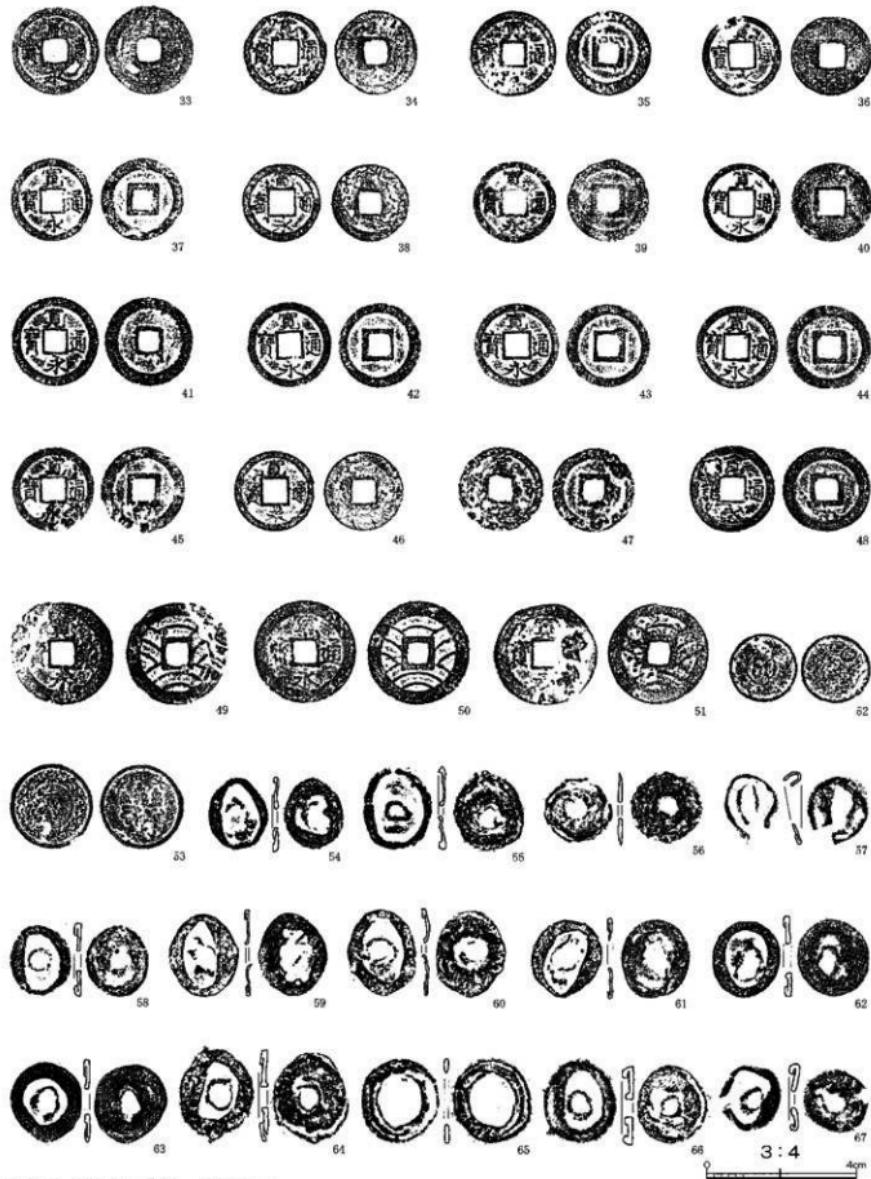


第30図 出土遺物実測図 上製品・骨角製品

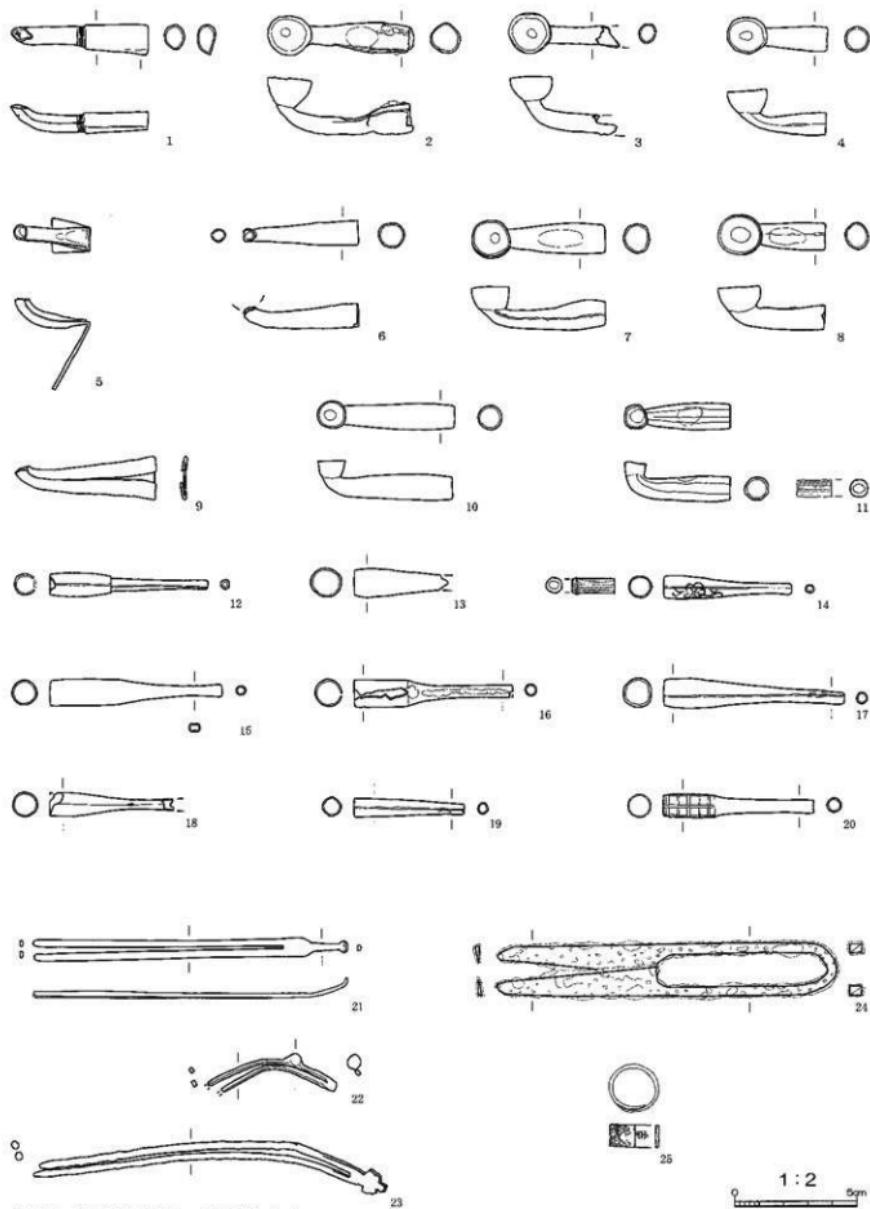


第31図 出土遺物実測図 占銭類（1）

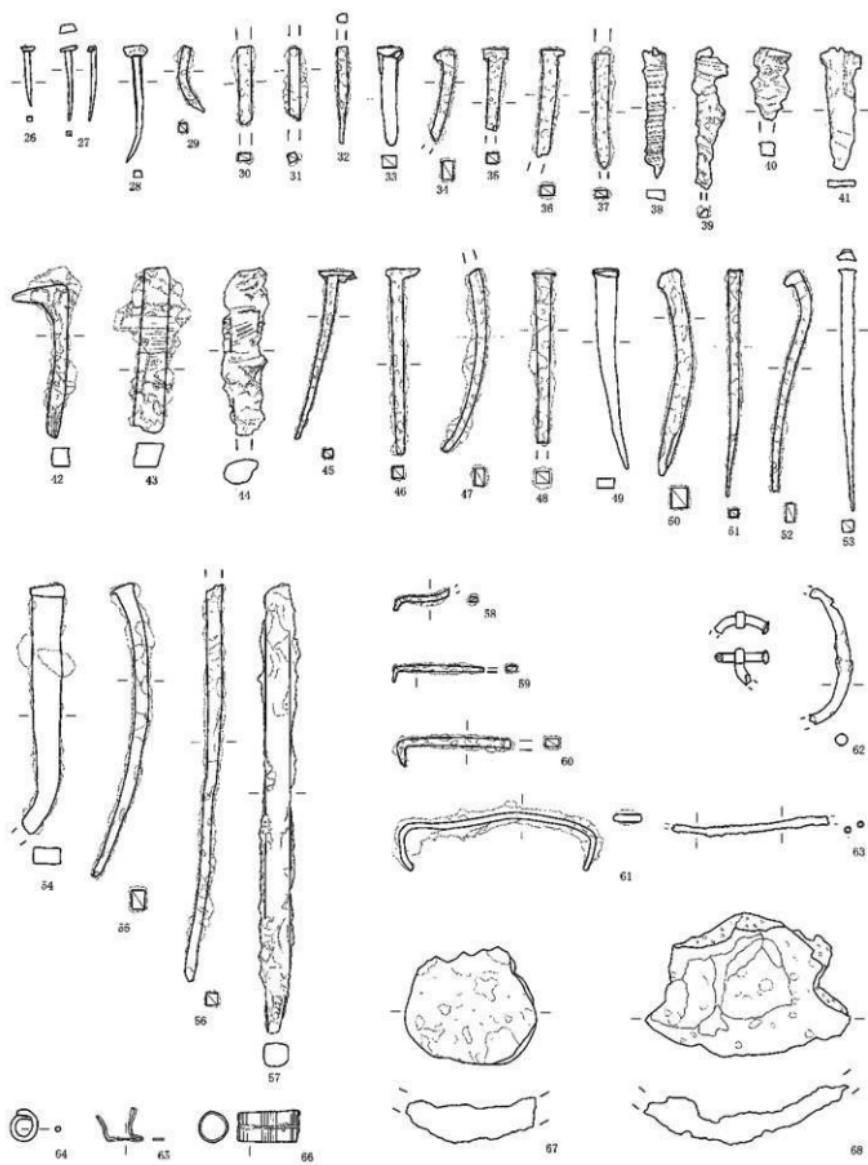
3 : 4
0 4cm



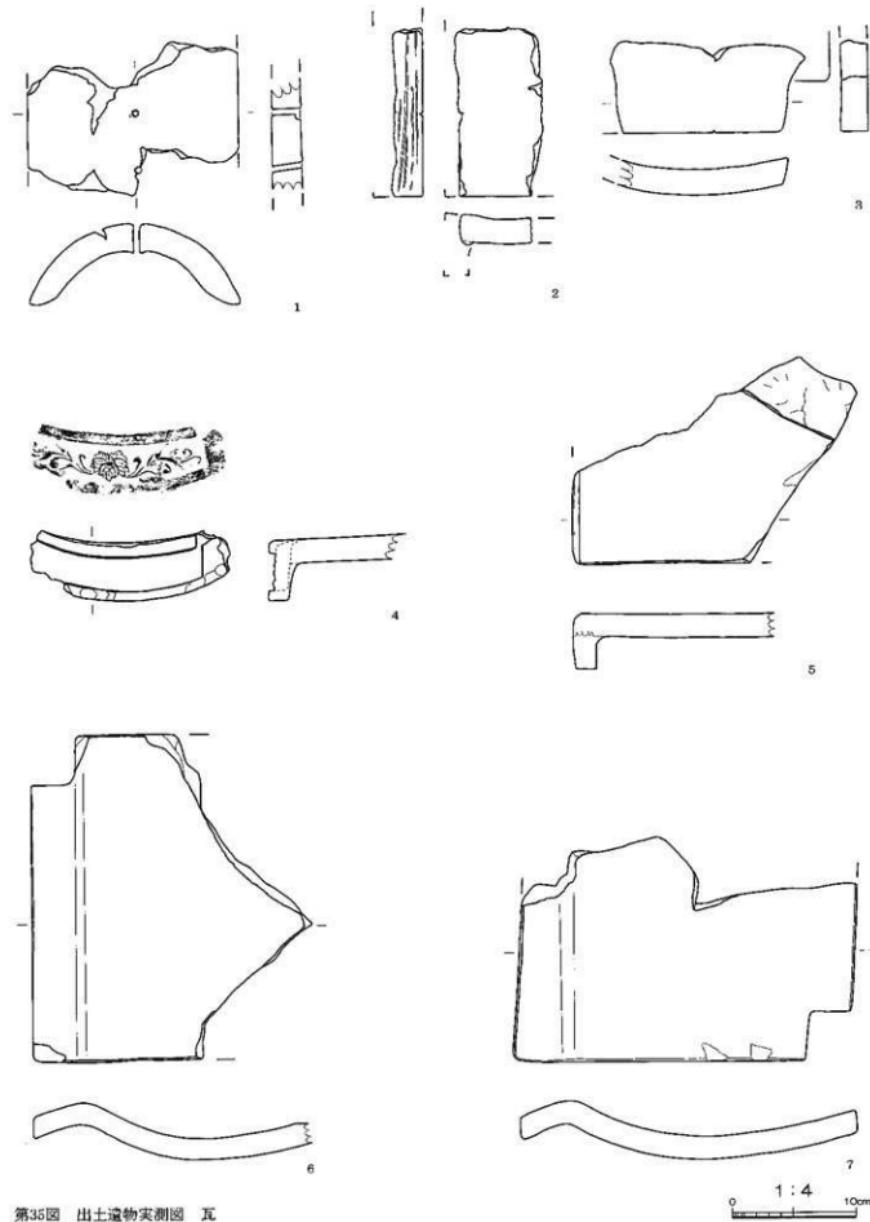
第32図 出土遺物実測図 占錢類（2）



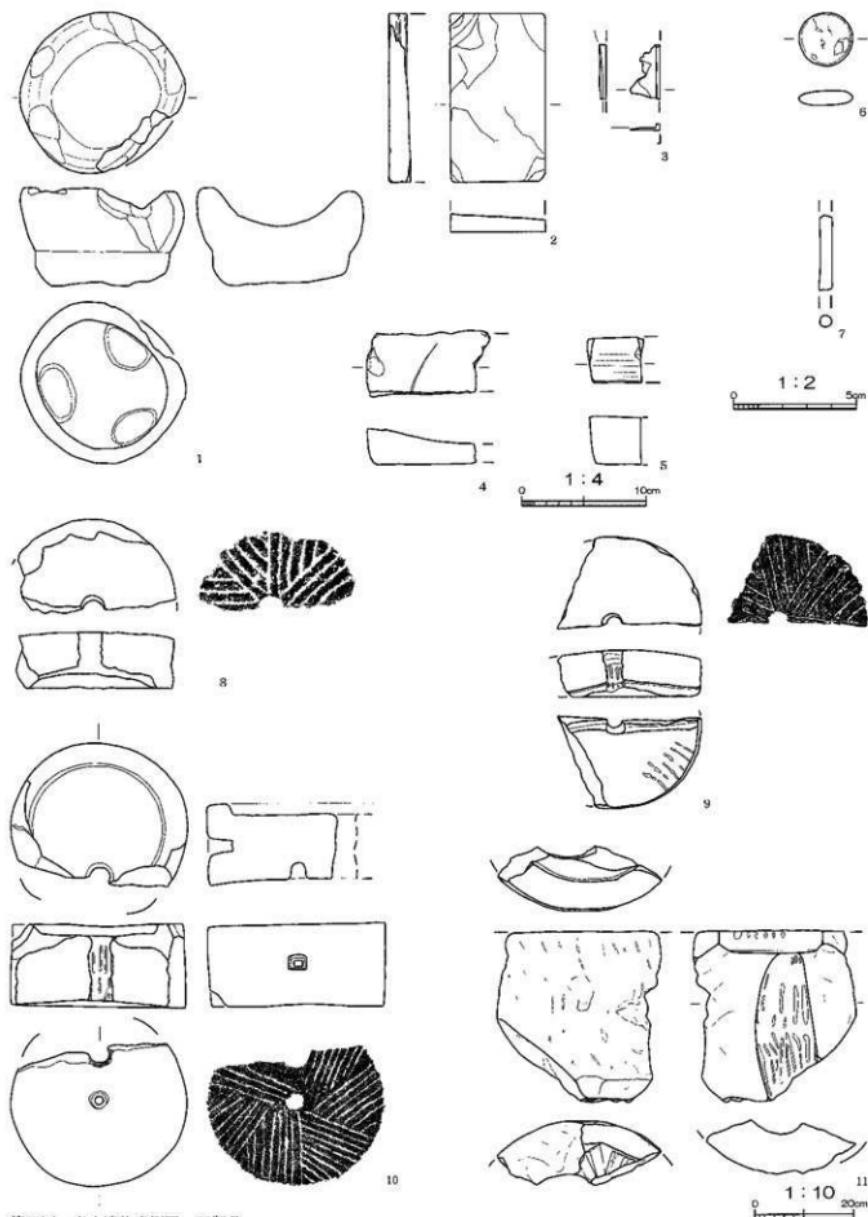
第33図 出土遺物実測図 金属製品（1）



第34図 出土遺物実測図 金属製品（2）



第35図 出土遺物実測図 瓦



第36図 出土遺物実測図 石製品

第4章　まとめ

発掘調査の結果、1次調査では整地面18面、石垣12列、礎石建物跡1軒、土坑4基を検出した。G面で検出された1号礎石建物跡は礎石が焼土や炭化物に覆われて検出された。建物に伴う炉跡と推定される4号土坑からは灰層上面から完形の土瓶、煙管雁首・吸口などが遺棄された状態で出土した。その他にも面の直上から検出された遺物が多く、焼失居跡と考えられる。また、I面・Q面でそれぞれ検出された2号・3号土坑は廁便槽跡と推定される。

出土遺物は1次調査区全体として17世紀から19世紀に亘る遺物が出土した。17世紀の遺物は僅少で、18世紀後半の遺物が主体となっている。

石垣の状態から整地面・石垣の形成順を考察すると、H面が最も古い面と考えられる。次ぎに、一番高いO・P・Q面、5号・10号石垣を境として一段下がるK・L・R・N面、更に1号・9号石垣を境として一段下がるJ面の3段が形成される。P面では火災後に面を整地し直してG面を形成し、その後5号石垣北側を嵩上げし、同時に5号石垣南側を継ぎ足したと考えられる。Q面も再整地後にI面を形成、その後に6号石垣を積み上げている。その後、1号石垣南東側の嵩上げと同時に4号石垣の積み上げを行ないF面が形成される。次いで3号石垣が積まれてE面が形成され、1号石垣北西側の積み上げによりD面が形成される。その後あるいは同時にA・B面が形成されたと考える。最後には2号石垣が積まれてC面が形成されたと考えられる。

2次調査では整地面8面、石垣5列、土坑4基を検出した。2C面で検出された2-1号・2-2号土坑はシルト・あるいは粘土の輪郭層内に灰層が堆積しており炉跡と考えられた。2F面では礎石の可能性がある石1個と、炉跡と考えられる2-3号土坑が検出された。2-3号土坑内の灰層上面からは煙管吸口、陶器碗破片が出土した。2-4号土坑は2E面から掘り込まれたものと考えられる。円形の粘土棒内面にたがの様な凹凸が観察され、桶状のものが埋設された跡と推測される。

2次調査区出土遺物も1次調査区同様17世紀から19世紀に亘る遺物が出土した。17世紀の遺物は僅少で18世紀後半の遺物が主体という状況も似通うが、1次調査区に比べて遺物量が少ないという特徴が見られた。また、多くの遺物が2B面の斜面下方から集中して検出されたように、出土位置に偏りが見られた。

整地面に関しては1次調査区とは差異が認められ、2A・2B面を除き、その他の面は一様に面が不明瞭で捉えにくい状況であった。また、2B・2D面など斜面をなす面が検出されている。1次調査区H面でも斜面部が観察されているが、H面が崖み状であるのに対し、2B・2D面では広がりを持つ明瞭な斜面部となっている。2B面斜面下方からは吹き溜まりの様に遺物が集中して出土している。

2次調査区の石垣は、1号石垣から連続すると考えられる2-1号石垣を除くと、使用石材が小さいという特徴がある。石臼の石垣転用が確認された2-4号石垣は比較的大きな礎が使用されているが、他の石垣では人頭大以下の礎が多く使用され、石垣が2列をして成る構造になっている。石垣は人為的に積み上げられたものであり、整地面も生活面と考えられるが、石垣と整地面の関係性を考察することは困難となっている。

今回の調査地区では河岸跡の生活面と、その地割りが次々と嵩上げされながら変遷を遂げた様子を確認することができた。これは、まさに富士川河畔に繁栄した河岸跡の町並みが背負う、水害との戦いの歴史を物語るものであった。そしてまた、この居住域と考えられ、同時代の遺物が出土し、同様に生活の痕跡が認められる範囲のなかで、多くの異なる状況も確認する結果となった。細かい区割りの町並みの中でも土地利用の差異を考える必要が指摘された。今後は同様な居住域と考えられる狭小な範囲内で確認された差異を考える上で、水害が頻出した南川の河畔に調査地が位置していることから、洪水被害が地形に与える影響も考慮して、居住面と考えられる地割りの中に斜面が確認されたことに関して再考する必要があると考える。

最後に発掘調査から報告書作成にあたり、ご指導ご協力を賜った方を、以下に記して御礼申し上げる。

石神裕之、今福利恵、坂本美夫、高野玄明、田中大輔、斎藤秀樹、末木建、新津健、保坂和博、保阪太一、保坂康夫、村石眞澄、森本伊知郎、山梨県教育委員会、山梨県埋蔵文化財センター、山梨交通鰐沢営業所（五十音順、敬称略）

参考文献

- 青山 靖 1959 「富士川水運史」『鰍沢町誌』 pp. 187–412
- 齊藤良一 1959 「富士川水運考」『鰍沢町誌』 pp. 413–524
- 清水小太郎 1959 「富士川水運と鰍沢町」『鰍沢町誌』 pp. 525–576
- 清水小太郎 1959 「富士川水運と角倉氏」『鰍沢町誌』 pp. 577–608
- 青山 靖 1959 「富士川水運史年表」『鰍沢町誌』 pp. 731–834
- 青山 靖 1996 「富士川水運」『鰍沢町誌』上巻 pp. 691–1012
- 立川実造 1996 「集落と人口」『鰍沢町誌』下巻 pp. 1–44
- 河西 学 1998 「地理的概観」『山梨県史』資料編 1 pp. 2–6
- 末木 健 1998 「遺跡の分布」『山梨県史』資料編 1 pp. 7–17
- 山梨県考古学協会編 1998 新版『山梨の遺跡』
- 山梨県考古学協会編 2004 山梨県考古学協会設立 25 周年記念『やまなし遺跡 100 選』
- 有限会社平凡社地方資料センター編 1995 日本歴史地名体系第 19巻『山梨県の地名』
- 山梨県埋蔵文化財センター 1998 『鰍沢河岸跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 148 集
- 山梨県埋蔵文化財センター 2005 『鰍沢河岸跡 II』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 224 集
- 山梨県埋蔵文化財センター 2006 『鰍沢河岸跡 III』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 235 集
- 山梨県埋蔵文化財センター 2006 『鰍沢河岸跡 IV』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 238 集
- 山梨県埋蔵文化財センター 2007 『鰍沢河岸跡 V』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 245 集

所蔵者番号		種類		収集小部文書地 (外題/内題/見込)		出土小部文書地(時代)		備考		口語名 内題名 著行地(出土位置)	
17-1	-	経文	経	小綱 久綱 久綱	久文//二重圓錐内五瓣花(にんにやく印)	灰白 灰白(成生)	灰白 灰白(成生)	灰付無地	10.5	4.5	5.1 A-底 N
17-2	-	経文	経	久綱 久綱	久文//二重圓錐内五瓣花(にんにやく印)	灰白 灰白(成生)	灰白 灰白(成生)	灰付無地	(10.4)	4.6	5.4 J
17-3	-	経文	経	久綱 久綱	久文//二重圓錐内五瓣花(にんにやく印)	灰白 灰白(成生)	灰白 灰白(成生)	灰付無地	9.6	4.2	5.2 G, P
17-4	-	経文	経	久綱 久綱	久文//二重圓錐内五瓣花(にんにやく印)	灰白 灰白(成生)	灰白 灰白(成生)	灰付無地	10.0	-	(4.7) G, P
17-5	-	経文	経	久綱 久綱	久文//二重圓錐内五瓣花(にんにやく印)	灰白 灰白(成生)	灰白 灰白(成生)	灰付無地	(10.0)	(3.5)	4.8 A, J
17-6	-	経文	経	久綱 久綱	久文//二重圓錐内五瓣花(にんにやく印)	灰白 灰白(成生)	灰白 灰白(成生)	灰付無地	(11.0)	4.2	4.9 次土
17-7	-	経文	経	久綱 久綱	久文//二重圓錐内五瓣花(にんにやく印)	灰白 灰白(成生)	灰白 灰白(成生)	灰付無地	(10.4)	-	2次土
17-8	-	経文	経	久綱 久綱	久文//二重圓錐内五瓣花(にんにやく印)	灰白 灰白(成生)	灰白 灰白(成生)	灰付無地	(11.4)	-	(4.5) B, 植
17-9	-	経文	経	久綱 久綱	久文//二重圓錐内五瓣花(にんにやく印)	灰白 灰白(成生)	灰白 灰白(成生)	灰付無地	(11.4)	-	(4.4) 2次土七
17-10	-	経文	経	久綱 久綱	久文//二重圓錐内五瓣花(にんにやく印)	灰白 灰白(成生)	灰白 灰白(成生)	灰付無地	(12.2)	-	(4.1) 2B, 植
17-11	-	経文	経	久綱 久綱	久文//二重圓錐内五瓣花(にんにやく印)	灰白 灰白(成生)	灰白 灰白(成生)	灰付無地	(12.8)	-	(5.9) G, P
17-12	-	経文	経	久綱 久綱	久文//二重圓錐内五瓣花(にんにやく印)	灰白 灰白(成生)	灰白 灰白(成生)	灰付無地	(9.8)	-	(4.1) A
17-13	-	経文	経	久綱 久綱	久文//二重圓錐内五瓣花(にんにやく印)	灰白 灰白(成生)	灰白 灰白(成生)	灰付無地	(11.7)	(4.6)	5.3 J
17-14	-	経文	経	久綱 久綱	久文//二重圓錐内五瓣花(にんにやく印)	灰白 灰白(成生)	灰白 灰白(成生)	灰付無地	(12.9)	-	(4.6) B, F-15, S
17-15	-	経文	経	久綱 久綱	久文//二重圓錐内五瓣花(にんにやく印)	灰白 灰白(成生)	灰白 灰白(成生)	灰付無地	(11.3)	-	(3.8) J
17-16	-	経文	経	久綱 久綱	久文//二重圓錐内五瓣花(にんにやく印)	灰白 灰白(成生)	灰白 灰白(成生)	灰付無地	(8.0)	-	(5.0) F-7
17-17	-	経文	経	久綱 久綱	久文//二重圓錐内五瓣花(にんにやく印)	灰白 灰白(成生)	灰白 灰白(成生)	灰付無地	(8.5)	-	(4.2) 6, P
17-18	-	経文	経	久綱 久綱	久文//二重圓錐内五瓣花(にんにやく印)	灰白 灰白(成生)	灰白 灰白(成生)	灰付無地	(9.0)	-	(4.1) C
17-19	-	経文	経	久綱 久綱	久文//二重圓錐内五瓣花(にんにやく印)	灰白 灰白(成生)	灰白 灰白(成生)	灰付無地	(11.0)	-	(4.1) 6, P
17-20	-	経文	経	久綱 久綱	久文//二重圓錐内五瓣花(にんにやく印)	灰白 灰白(成生)	灰白 灰白(成生)	灰付無地	(7.3)	(3.5)	5.3 A, J
17-21	-	経文	経	久綱 久綱	久文//二重圓錐内五瓣花(にんにやく印)	灰白 灰白(成生)	灰白 灰白(成生)	灰付無地	8.2	3.6	5.3 A, F-15
17-22	-	経文	経	久綱 久綱	久文//二重圓錐内五瓣花(にんにやく印)	灰白 灰白(成生)	灰白 灰白(成生)	灰付無地	7.4	3.8	5.7 O
18-23	-	経文	経	美形経 美形経	美文//二重圓錐内五瓣花(にんにやく印)	白 白(成生)	白 白(成生)	灰付無地	(7.2)	(4.7) N	-
18-24	-	経文	経	美形経 美形経	美文//二重圓錐内五瓣花(にんにやく印)	白 白(成生)	白 白(成生)	灰付無地	7.5	-	(5.3) P
18-25	-	経文	経	美形経 美形経	美文//二重圓錐内五瓣花(にんにやく印)	白 白(成生)	白 白(成生)	灰付無地	(6.80)	-	(4.9) F-7
18-26	-	経文	経	美形経 美形経	美文//二重圓錐内五瓣花(にんにやく印)	白 白(成生)	白 白(成生)	灰付無地	7.9	4.0	6.0 O
18-27	-	経文	経	美形経 美形経	美文//二重圓錐内五瓣花(にんにやく印)	白 白(成生)	白 白(成生)	灰付無地	8.2	-	(4.0) L
18-28	-	経文	経	美形経 美形経	美文//二重圓錐内五瓣花(にんにやく印)	白 白(成生)	白 白(成生)	灰付無地	(7.0)	-	(5.1) N
18-29	-	経文	経	美形経 美形経	美文//二重圓錐内五瓣花(にんにやく印)	白 白(成生)	白 白(成生)	灰付無地	(6.7)	3.4	5.0 O
18-30	-	経文	経	美形経 美形経	美文//二重圓錐内五瓣花(にんにやく印)	白 白(成生)	白 白(成生)	灰付無地	-	-	-

黒田音楽団歌曲等		歌題		歌題小小曲 文題也(外面/内面/見込)		歌者色指定記号年代		歌者色		歌者色	
19 45	—	歌物	歌	小丸純 //一里塀際内方文	白	肥前/186後半	豊竹無袖	7.4	2.6	3.1	1.5, N
19 46	—	歌物	糸	小丸純 //	白	肥前/186後半	豊竹無袖	7.8	—	(3.1) /U	4.2, F, T, 活
19 67	—	歌物	糸	小丸純 //	白	肥前/186	上袖付	(6.1)	—	(4.3) /A, 下	4.3, B, 活, 売上
19 69	—	歌物	糸	小丸純 //	白	肥前/186	上袖付	(6.5)	—	(4.3) /A, 下	4.3, B, 活, 売上
19 49	—	歌物	糸	小丸純 //	白	肥前/186後半	豊竹無袖, 豊竹行シ腰袋付(176年やく印)	(10.2)	—	(4.6) /A, 下	4.6, B, 活
19 70	—	歌物	糸	小丸純 //	白	肥前/186後半	豊竹無袖, 豊竹行シ腰袋付(176年やく印)	(8.4)	—	(4.0) /F, 下	4.5, T, A
19 71	—	歌物	糸	小丸純 //	白	肥前/186後半	豊竹無袖, 豊竹行シ腰袋付(176年やく印)	(7.6)	—	(4.0) /F, 下	4.5, T, A
20 72	—	歌物	糸	小丸純 //	白	肥前/186後半	豊竹無袖, 豊竹行シ腰袋付(176年やく印)	(14.0)	(6.8)	—	3.0, B
20 73	—	歌物	糸	小丸純 //	白	肥前/186後半	豊竹無袖, 豊竹行シ腰袋付(176年やく印)	—	—	6.8	(2.5) N
20 74	—	歌物	糸	小丸純 //	白	肥前/186後半	豊竹無袖, 豊竹行シ腰袋付(176年やく印)	(14.0)	(7.0)	3.2, 2B	—
20 75	—	歌物	糸	小丸純 //	白	肥前/186後半	豊竹無袖, 豊竹行シ腰袋付(176年やく印)	(16.0)	(10.8)	3.7 P	—
20 76	—	歌物	糸	小丸純 //	白	肥前/186後半	豊竹無袖, 豊竹行シ腰袋付(176年やく印)	(14.2)	(8.4)	4.0, S	—
20 77	—	歌物	糸	丸里 //	白	肥前/176後半	豊竹無袖, 豊竹行シ腰袋付(176年やく印)	(14.4)	(10.6)	3.3, T, F, S	—
20 78	—	歌物	糸	丸里 //	白	肥前/176後半	豊竹無袖, 豊竹行シ腰袋付(176年やく印)	(13.2)	(8.0)	3.4 T	—
20 79	—	歌物	糸	丸里 //	白	肥前/176後半	豊竹無袖, 豊竹行シ腰袋付(176年やく印)	(14.4)	(9.0)	3.0, G	—
20 80	—	歌物	糸	丸里 //	白	肥前/176後半	豊竹無袖, 豊竹行シ腰袋付(176年やく印)	(14.2)	(8.0)	3.7, 2B	—
20 81	—	歌物	糸	丸里 //	白	肥前/176後半	豊竹無袖, 豊竹行シ腰袋付(176年やく印)	(14.2)	(8.8)	3.2, B	—
20 82	—	歌物	糸	丸里 //	白	肥前/176後半	豊竹無袖, 豊竹行シ腰袋付(176年やく印)	—	7.6	(2.5) I, 下	—
20 83	—	歌物	糸	丸里 //	白	肥前/186前半	豊竹無袖, 豊竹行シ腰袋付(176年やく印)	(9.3)	5.1	2.3, B, 次表上, 活	—
20 84	—	歌物	糸	丸里 //	白	肥前/186前半	豊竹無袖, 豊竹行シ腰袋付(176年やく印)	(9.8)	(6.4)	2.0, B, 次表上, 活	—
20 85	—	歌物	糸	丸里 //	白	肥前/186前半	豊竹無袖, 豊竹行シ腰袋付(176年やく印)	—	5.6	(1.4) ZF	—
20 86	—	歌物	糸	丸里 //	白	肥前/176後半	豊竹無袖, 豊竹行シ腰袋付(176年やく印)	(10.0)	(7.0)	2.0, 2B, 活	—
20 87	—	歌物	糸	丸里 //	白	肥前/186前半	余切り袖工上板(萬古足付)	(9.6)	(7.6)	2.5, 4D, 活	—
20 88	—	歌物	糸	丸里 //	白	肥前/176後半	豊竹無袖, 伝承目り(萬古足付)176年やく印	(10.0)	2.4	6.2, P	—
21 89	—	歌物	糸	丸里 //	白	肥前/186前半	豊竹無袖, 伝承目り(萬古足付)176年やく印	(15.3)	6.8	3.4, F, T, 下, 活	—
21 90	—	歌物	糸	丸里 //	白	肥前/186前半	豊竹無袖, 伝承目り(萬古足付)176年やく印	(8.4)	—	(1.5) /A, 下	—
21 91	—	歌物	糸	丸里 //	白	肥前/176後半	余切り袖工上板(萬古足付)?, 他の万古袖, 豊竹無袖	8.4	—	6.3	2.2, D, T, 活
21 92	—	歌物	糸	丸里 //	白	肥前/176後半~	余切り袖工上板(萬古足付)?, 他の万古袖, 豊竹無袖	(13.0)	(7.5)	2.2, 2B, 活	—
21 93	—	歌物	糸	丸里 //	白	肥前/176後半~	余切り袖工上板(萬古足付)?, 他の万古袖, 豊竹無袖	(13.0)	(7.6)	2.2, 2B, 活	—
21 94	—	歌物	糸	丸里 //	白	肥前/186前半	余切り袖工上板(萬古足付)?, 他の万古袖, 豊竹無袖	(10.8)	6.0	2.1, D, T, F, T, 活	—
21 95	—	歌物	糸	丸里 //	白	肥前/186前半	余切り袖工上板(萬古足付)?, 他の万古袖, 豊竹無袖	(10.2)	(6.0)	2.4, D, P	—
21 96	—	歌物	糸	丸里 //	白	肥前/186後半	余切り袖工上板(萬古足付)?, 他の万古袖, 豊竹無袖	(6.6)	6.0	2.1, B, T, 活	—
21 97	—	歌物	糸	丸里 //	白	肥前/186後半	余切り袖工上板(萬古足付)?, 他の万古袖, 豊竹無袖	(6.5)	4.5	5.2, T, F, T, 活	—
21 98	—	歌物	糸	丸里 //	白	肥前/186後半	余切り袖工上板(萬古足付)?, 他の万古袖, 豊竹無袖	—	3.8	(4.4) A, T, F, T, 活	—
21 99	—	歌物	糸	丸里 //	白	肥前/186後半	余切り袖工上板(萬古足付)?, 他の万古袖, 豊竹無袖	(6.2)	—	0.9, F, T, F, 活	—

特征字母识别号	别名	描述	特征小题(外型/内部/见心)	特征小题(外型/内部/见心)	参考	口器	齿型	壳色	生长期
23 - 10	角钩	壳	灰白 灰钩·触钩·压钩	灰白 灰钩·触钩·压钩	深红褐色	(9. 2)	—	(5. 2) I~II下-齿	
23 - 11	角钩	钩	灰钩	灰钩·触钩·压钩	深红褐色	(10. 2)	—	(6. 1) q	
23 - 12	角钩	钩	灰钩	灰钩·触钩·压钩	深红褐色	(11. 1)	(4. 7)	6. 5. 2次壳上	
23 - 13	胸钩	钩	灰钩	灰钩·触钩·压钩·自壳(触毛针)/灰钩·自壳(刷毛针)/灰钩	深红褐色	(11. 2)	—	2~3土壳(27)	
23 - 14	胸钩	钩	灰钩	灰钩·触钩·压钩·自壳(触毛针)/灰钩·自壳(刷毛针)/灰钩	深红褐色	(10. 5)	(2. 6)	2~3下-齿	
23 - 15	胸钩	钩	灰钩	灰钩·触钩·压钩	深红褐色	(11. 5)	5. 6	7. 2~8下	
23 - 16	胸钩	钩	灰钩	灰钩·触钩·压钩	深红褐色	(11. 5)	5. 1	7. 9~8土壳	
23 - 17	胸钩	钩	灰钩	灰钩·触钩·压钩	深红褐色	(11. 5)	4. 5	(2. 9) 2C	
23 - 18	胸钩	钩	灰钩	灰钩·触钩·压钩	深红褐色	(11. 0)	—	2C下	
23 - 19	胸钩	钩	灰钩	灰钩·触钩(口钩)/触钩·触钩	深红褐色	(10. 2)	5. 6	8. 2次壳上	
23 - 20	胸钩	钩	灰钩	灰钩·触钩·触钩	深红褐色	(11. 1)	—	(5. 9) 2D F, 2G	
23 - 21	胸钩	钩	灰钩	灰钩·触钩·触钩	深红褐色	(10. 4)	4. 8	(4. 3) 2D下	
23 - 22	胸钩	钩	灰钩	灰钩·触钩·触钩	深红褐色	(11. 4)	(3. 8)	(4. 3) H	
23 - 23	胸钩	钩	灰钩	灰钩·触钩·触钩	深红褐色	(6. 6)	2. 8	3. 7 N, M, T, H	
23 - 24	胸钩	钩	灰钩	灰钩·触钩·触钩	深红褐色	(6. 4)	2. 6	3. N	
23 - 25	胸钩	钩	灰钩	灰钩(1触2钩)/灰钩·触钩·触钩(口钩)	深红褐色	(6. 4)	2. 7	3. A	
23 - 26	胸钩	钩	灰钩	灰钩·触钩·触钩	深红褐色	(6. 6)	3. 6	3. A	
23 - 27	胸钩	钩	灰钩	灰钩·触钩·触钩	深红褐色	(7. 0)	—	(2. 3) K	
23 - 28	胸钩	钩	灰钩	灰钩·触钩·触钩	深红褐色	(7. 0)	—	(2. 8) G, T, H	
23 - 29	胸钩	钩	灰钩	灰钩·触钩·触钩	深红褐色	(7. 3)	3. 7	4. L N	
24 - 20	胸钩	虫	灰钩	灰钩·触钩·触钩	深红褐色	(6. 0)	—	(3. 5) 2土壳(I)	
24 - 31	胸钩	虫	灯明虫	深红(触钩刺)/触钩	深红褐色	(9. 4)	5. 1	2. I P	
24 - 32	胸钩	虫	灯明虫	深红(触钩刺)/触钩	深红褐色	(9. 6)	(3. 9)	2. I L	
24 - 33	胸钩	虫	灯明虫	深红(触钩刺)/触钩	深红褐色	(9. 6)	(4. 1)	1. 6 N	
24 - 34	胸钩	虫	灯明虫	深红(触钩刺)/触钩	深红褐色	(9. 6)	(4. 6)	2. 6 A	
24 - 35	胸钩	虫	灯明虫	深红(触钩刺)/触钩	深红褐色	(10. 6)	6. 2	2. 2 C下	
24 - 36	胸钩	虫	灯明虫	深红(触钩刺)/触钩	深红褐色	(10. 2)	6. 2	4. 8 B下	
24 - 37	胸钩	虫	灯明虫	深红(触钩刺)/触钩	深红褐色	(10. 6)	(5. 2)	2. 0 D~E	
24 - 38	胸钩	虫	灯明虫	深红(触钩刺)/触钩	深红褐色	(10. 7)	4. 4	2. 1 D~F~H	
24 - 39	胸钩	虫	灯明虫	深红(触钩刺)/触钩	深红褐色	(12. 0)	4. 6	2. 7~23下	
24 - 40	触钩	虫	灯明虫	深红(触钩刺)/触钩	深红褐色	(—)	(4. 1)	(1. 8) K	
24 - 41	触钩	虫	灯明虫	深红(触钩刺)/触钩	深红褐色	(9. 8)	(4. 2)	5. 2 N	
24 - 42	触钩	虫	灯明虫	深红(触钩刺)/触钩	深红褐色	(10. 1)	—	1. 7 M, O	
24 - 43	触钩	虫	灯明虫	深红(触钩刺)/触钩	深红褐色	(10. 6)	—	2. N	
24 - 44	触钩	虫	灯明虫	深红(触钩刺)/触钩	深红褐色	(11. 0)	—	1. 9 L	
						(6. 2)	—	1. 7 L	

地図番号/図版番号		場所		特徴(小分類/文部省外/外観/内面/裏見)		出土色指定地年代		備考		口径/直径×高さ/深さ/出土地面	
24.45	—	胸鉢	皿	六角皿 灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	11.1	—
24.46	—	胸鉢	皿	灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(13.6)	2.9
24.47	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(6.2)	2.9
24.48	—	胸鉢	皿	灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(2.1)	2H
24.49	—	胸鉢	皿	三曲口 灰白(底部灰白)/灰白(底部)	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(14.8)	6.9/2H~1H
24.50	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	—	—
25.-51	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(13.6)	4.9/2H
25.-52	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(9.2)	2.4,6,P
25.-53	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(11.6)	0.6/下-柄
25.54	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(14.2)	4.8/2H
25.55	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(3.5)	E-柄
25.56	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(2.4)	F-T-柄
25.-57	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(6.4)	P
25.58	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(12.0)	—
25.59	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(6.6)	6.2
25.60	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	4.0/3D下	—
25.61	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(11.9)	—
25.62	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(4.9)	—
25.-63	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(10.2)	4.5/2S
25.64	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(10.0)	6.0
25.-65	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(6.5)	7.5,T
25.-66	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(7.0)	—
25.-67	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(3.9)	G-柄
25.-68	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(6.6)	1.7,P
25.-69	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(12.1)	—
25.-70	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(7.7)	—
25.-71	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(11.7)	—
25.-72	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(12.1)	—
25.-73	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(7.2)	—
25.-74	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(7.9)	6.7,T
25.-75	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(6.7)	M下-柄
25.-76	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(12.6)	P
25.-77	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(6.1)	1.2,2B下
25.-78	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	—	8.5
25.-79	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(6.7)	1.4,4.3+4+P
25.-80	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(9.3)	—
26.81	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(14.8)	—
26.-82	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(7.9)	5.8/F-柄
26.-83	—	胸鉢	皿	灰白 灰白/灰白	灰白	灰白	灰白	灰白	—	(18.1)	11.4/2D,F-2P,3H

標題		副題		副題小分類		副題小分類（外語/内語/見込）		概念性述語/九代		備考	
				次語		次語		次語			
26	85	一	—	陶器	件	灰口	灰口	灰口	灰口	—	(10.0) (8.2) N-55
27	-85	—	陶器	件	灰口	/鉢形	灰口	灰口	灰口	—	(9.0) (3.1) N
27	-85	—	陶器	件	灰口	灰口/鉢形/盆形/机形	灰口	灰口	灰口	—	(15.0) (16.0) (16.2) M-W-1番
27	-87	—	陶器	件	灰口	灰口/鉢形/盆形/机形	灰口	灰口	灰口	—	(19.0) (9.0) 7.9.28下
27	-88	—	陶器	件	灰口	灰口/鉢形/盆形/机形	灰口	灰口	灰口	—	(9.2) G
27	-89	—	陶器	件	灰口	灰口/鉢形/盆形/机形	灰口	灰口	灰口	—	(7.9) G-25下 挿
27	-90	—	陶器	件	灰口	灰口/鉢形/盆形/机形	灰口	灰口	灰口	—	(7.7) G-P-45
27	-91	—	陶器	件	灰口	灰口/鉢形/盆形/机形	灰口	灰口	灰口	—	(11.9) F-T-45.4
27	-92	—	陶器	件	灰口	灰口/鉢形/盆形/机形	灰口	灰口	灰口	—	(9.8) 2B
27	-93	—	陶器	件	灰口	灰口/鉢形/盆形/机形	灰口	灰口	灰口	—	(13.8) (8.7) 2B
27	-94	—	陶器	件	灰口	灰口/鉢形/盆形/机形	灰口	灰口	灰口	—	(14.0) (5.2) G-1番
27	-95	—	陶器	件	灰口	灰口/鉢形/盆形/机形	灰口	灰口	灰口	—	(20.2) —
27	96	—	陶器	件	灰口	灰口/鉢形/盆形/机形	灰口	灰口	灰口	—	(3.3) F-T-45.4
27	97	—	陶器	件	灰口	灰口/鉢形/盆形/机形	灰口	灰口	灰口	—	(10.0) Y
27	-98	—	陶器	要	灰口	灰口/鉢形/盆形/机形	灰口	灰口	灰口	—	(15.6) (8.5) F-T-45
27	-99	—	陶器	要	灰口	灰口/鉢形/盆形/机形	灰口	灰口	灰口	—	(13.7) 2B
27	-100	—	陶器	要	灰口	灰口/鉢形/盆形/机形	灰口	灰口	灰口	—	(16.7) I-2上原(1)
27	-101	—	陶器	件	灰口	灰口/鉢形/盆形/机形	灰口	灰口	灰口	—	—
27	-102	—	陶器	件	灰口	灰口/鉢形/盆形/机形	灰口	灰口	灰口	—	(4.9) F-T-45
27	-103	—	陶器	—	灰口	灰口/鉢形/盆形/机形	灰口	灰口	灰口	—	(15.4) —
27	-104	—	陶器	—	灰口	灰口/鉢形/盆形/机形	灰口	灰口	灰口	—	(13.7) 2B
28	-1	—	土器	灰口	灰口	—	灰口	灰口	灰口	—	—
28	-2	—	土器	灰口	灰口	—	灰口	灰口	灰口	—	—
28	3	—	土器	灰口	灰口	—	灰口	灰口	灰口	—	—
28	4	—	土器	灰口	灰口	—	灰口	灰口	灰口	—	—
28	-5	—	土器	灰口	灰口	—	灰口	灰口	灰口	—	—
28	-6	—	土器	灰口	灰口	—	灰口	灰口	灰口	—	—
28	7	—	土器	灰口	灰口	—	灰口	灰口	灰口	—	—
28	8	—	土器	灰口	灰口	—	灰口	灰口	灰口	—	—
28	9	—	土器	灰口	灰口	—	灰口	灰口	灰口	—	—
28	10	—	土器	灰口	灰口	—	灰口	灰口	灰口	—	—
28	11	—	土器	灰口	灰口	—	灰口	灰口	灰口	—	—
28	12	—	土器	目皿	灰口	—	灰口	灰口	灰口	—	—
28	13	—	土器	火鉢	灰口	—	灰口	灰口	灰口	—	—
28	14	—	土器	火鉢	灰口	—	灰口	灰口	灰口	—	—
29	14	—	土器	火鉢	灰口	—	灰口	灰口	灰口	—	—
29	15	—	土器	火鉢	灰口	—	灰口	灰口	灰口	—	—
29	16	—	土器	火鉢	灰口	—	灰口	灰口	灰口	—	—
29	17	—	土器	火鉢	灰口	—	灰口	灰口	灰口	—	—

区域带号及带号带数		剖面		小分带		带宽		带宽(公里)		带宽(公里)		山土位置	
带号	带数	古地貌	地层	古地貌	地层	带宽	带数	带宽	带数	带宽	带数	带宽	带数
31.-17	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	0.67	0.10	1.5下-下	-
31.-18	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.29	0.65	0.10	1.5上
31.-19	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.22	0.60	0.10	1.4下-下
31.-20	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	(2.43)	(0.60)	0.12	(1.5)P
31.-21	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.36	0.60	0.10	2.1P
31.-22	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.31	0.65	0.12	2.6 P
31.-23	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.49	0.60	0.11	4.0 I
31.-24	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.44	0.62	0.11	2.4 I
31.-25	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.31	0.68	0.10	2.3 R
31.-26	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.38	0.62	0.10	2.2 P
31.-27	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.25	0.62	0.10	2.3 P
31.-28	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.22	0.68	0.11	2.0 I
31.-29	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.20	0.60	0.10	1.8 G
31.-30	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.35	0.62	0.11	2.4 Q
31.-31	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.41	0.69	0.12	2.6 R
31.-32	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.25	0.62	0.12	1.9 O
32.-33	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.44	0.69	0.08	1.9 F
32.-34	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.31	0.68	0.11	2.1 F
32.-35	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.33	0.60	0.13	2.8 F
32.-36	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.18	0.68	0.09	1.8 G
32.-37	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.33	0.66	0.13	2.6 I
32.-38	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.15	0.64	0.11	2.4 土坡(P)
32.-39	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.31	0.63	0.12	2.3 R
32.-40	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.18	0.70	0.08	1.1/2次冲上
32.-41	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.45	0.60	0.13	3.3 2次冲土
32.-42	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.32	0.65	0.11	2.8 2次冲上
32.-43	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.29	0.63	0.10	2.9 2B
32.-44	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.29	0.61	0.10	2.6 2B F
32.-45	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.32	0.60	0.11	2.5 2E
32.-46	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.23	0.62	0.11	2.1 Q
32.-47	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.30	0.58	0.12	3.2 R
32.-48	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.35	0.60	0.15	3.1 F
32.-49	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.85	0.65	0.13	3.8 1F 下-西
32.-50	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.84	0.62	0.13	4.9 P
32.-51	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.82	0.66	0.13	5.0 R
32.-52	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.29	-	0.13	1.9 1-1
32.-53	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.26	0.60	0.09	1.7 F
-	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.35	0.62	0.13	2.6 N
-	-	古地貌	地层	古地貌	地层	新夏水油页	-	-	-	2.34	0.63	0.15	2.8 N

项目	类别	项目	类别	项目	类别
33 - 17 11 - 6	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
33 - 18 11 - 7	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
33 - 19 11 - 8	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
33 - 20 11 - 9	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
33 - 21 11 - 10	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
33 - 22 11 - 11	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
33 - 23 11 - 12	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
33 - 24 11 - 13	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
33 - 25 11 - 14	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
33 - 26 11 - 15	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
34 - 27 12 - 1	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
34 - 28 12 - 2	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
34 - 29 12 - 3	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
34 - 30 12 - 4	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
34 - 31 12 - 5	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
34 - 32 12 - 6	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
34 - 33 12 - 7	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
34 - 34 12 - 8	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
34 - 35 12 - 9	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
34 - 36 12 - 10	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
34 - 37 12 - 11	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
34 - 38 12 - 12	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
34 - 39 12 - 13	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
34 - 40 12 - 14	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
34 - 41 12 - 15	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
34 - 42 12 - 16	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
34 - 43 13 - 2	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
34 - 44 13 - 3	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
34 - 45 13 - 4	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
34 - 46 13 - 5	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
34 - 47 13 - 6	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
34 - 48 13 - 7	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
34 - 49 13 - 8	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
34 - 50 13 - 9	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
34 - 51 13 - 10	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
34 - 52 13 - 11	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
34 - 53 13 - 12	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
34 - 54 13 - 13	金属制品	金质物品	金质	金质	金质
34 - 55 13 - 14	金属制品	金质物品	金质	金质	金质

每块重量

每块厚度

每块宽度

每块长度

每块面积

每块重量

番号		別名		種別		岩種		備考		長さ(cm)		幅(cm)		厚さ(cm)		高さ(cm)		出土地		
34-56	13-15	金属製品	鋸	金屬製品	鋸	金屬製品	鋸	金屬製品	鋸	—	—	—	—	—	—	—	—	16.50	0.92	20.56±2.5cm(2F)
34-57	14-1	金属製品	鋸	金属製品	鋸	金属製品	鋸	金属製品	鋸	—	—	—	—	—	—	—	—	16.40	1.70	1.49 7.90 F
34-58	14-2	金属製品	鋸	金属製品	鋸	金属製品	鋸	金属製品	鋸	—	—	—	—	—	—	—	—	12.20	0.68	0.59 1.90 F
34-59	14-3	金属製品	鋸	金属製品	鋸	金属製品	鋸	金属製品	鋸	—	—	—	—	—	—	—	—	13.78	0.56	0.74 1.67 22F
34-60	14-4	金属製品	鋸	金属製品	鋸	金属製品	鋸	金属製品	鋸	—	—	—	—	—	—	—	—	14.99	0.92	1.28 6.58 2C下-15
34-61	14-5	金属製品	鋸	金属製品	鋸	金属製品	鋸	金属製品	鋸	—	—	—	—	—	—	—	—	8.60	2.40	2.20 20.00±2.5cm(3F)
34-62	14-6	金属製品	鋸	金属製品	鋸	金属製品	鋸	金属製品	鋸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.41 2B-15
34-63	14-7	金属製品	鋸	金属製品	鋸	金属製品	鋸	金属製品	鋸	—	—	—	—	—	—	—	—	6.50	0.95	— 1.45 0.7-15
34-64	14-8	金属製品	鋸	金属製品	鋸	金属製品	鋸	金属製品	鋸	—	—	—	—	—	—	—	—	1.30	1.16	2.50 1.69 P
34-65	14-9	金属製品	鋸	金属製品	鋸	金属製品	鋸	金属製品	鋸	—	—	—	—	—	—	—	—	1.90	1.35	— 1.60 Q
34-66	14-10	金属製品	鋸	金属製品	鋸	金属製品	鋸	金属製品	鋸	—	—	—	—	—	—	—	—	2.50	1.30	1.20 4.00 P
34-67	14-11	金属製品	鋸	金属製品	鋸	金属製品	鋸	金属製品	鋸	—	—	—	—	—	—	—	—	5.35	4.46	1.71 5.87 2C下-15
34-68	14-12	金属製品	鋸	金属製品	鋸	金属製品	鋸	金属製品	鋸	—	—	—	—	—	—	—	—	8.42	6.92	2.38 10.13 34.2C下
35-1	14-13	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	12.60	1.70	2.47 6.54 B7-15
35-2	14-14	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	13.80	1.60	2.32 316 B7-15
35-3	14-15	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	15.95	1.60	2.12 361 B7-15
35-4	15-1	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	11.30	16.30	4.78 42.7 N
35-5	15-2	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	13.70	11.60	4.88 66.6 F7-15
35-6	15-3	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	26.90	22.70	1.99 1.82 F7-15
35-7	15-4	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	漆瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	27.70	18.40	1.99 1.972 F7-15
36-1	15-5	石製品	鉋受け台? 鉋	—	—	—	—	—	—	—	—	13.54	15.52	8.03 1.381 2E F						
36-2	15-6	石製品	鉋	石製品	鉋	石製品	鉋	石製品	鉋	—	—	—	—	—	—	—	—	13.90	7.75	1.72 37.76 2E
36-3	15-7	石製品	鉋	石製品	鉋	石製品	鉋	石製品	鉋	—	—	—	—	—	—	—	—	14.40	12.40	0.56 3.86 2B-15
36-4	15-8	石製品	鉋	石製品	鉋	石製品	鉋	石製品	鉋	—	—	—	—	—	—	—	—	14.60	8.05	2.95 16.7 0.5 2C下
36-5	15-9	石製品	鉋	石製品	鉋	石製品	鉋	石製品	鉋	—	—	—	—	—	—	—	—	14.51	4.38	3.72 11.2 31.2D
36-6	15-10	石製品	鉋	石製品	鉋	石製品	鉋	石製品	鉋	—	—	—	—	—	—	—	—	2.21	2.18	0.59 4.22 2K-15
36-7	15-11	石製品	鉋	石製品	鉋	石製品	鉋	石製品	鉋	—	—	—	—	—	—	—	—	13.12	0.52	0.52 1.79 C-15
標記番号		種別		岩種		岩種		岩種		長さ(cm)		幅(cm)		厚さ(cm)		高さ(cm)		出土地		
36-8	15-12	石製品	石臼	石製品	石臼	石製品	石臼	石製品	石臼	—	—	—	—	—	—	—	—	11.6	10.0 N	
36-9	15-13	石製品	石臼	石製品	石臼	石製品	石臼	石製品	石臼	—	—	—	—	—	—	—	—	13.90	11.80	9.5 6.9 2B-15
36-10	15-14	石製品	石臼	石製品	石臼	石製品	石臼	石製品	石臼	—	—	—	—	—	—	—	—	27.00	18.00	17.1 28.6 2-46田
36-11	15-15	石製品	臼?	石製品	臼?	石製品	臼?	石製品	臼?	—	—	—	—	—	—	—	—	13.90	23.90	(13.1) 16.9 2-47石塀

写 真 図 版

図版 1



1 1次調査調査区全景A～I面（東から）



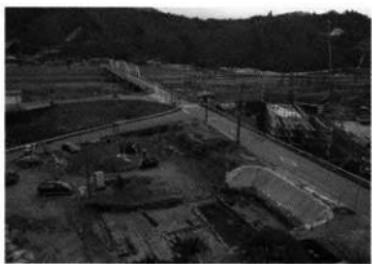
2 1次調査調査区全景J～R面（東から）



3 1次調査調査区遠景A～I面（北から）



4 1次調査調査区遠景J～R面（北から）



5 1次調査調査区遠景A～I面（西から）



6 1次調査調査区遠景J～R面（西から）



7 1次調査調査前状況（西から）



8 1次調査調査風景（北から）



1 2次調査調査区全景 2A～2H面（東から）



2 2次調査調査前状況（南から）



3 2次調査調査区遠景 2A～2H面（北から）



4 2次調査調査風景（南から）



5 2次調査調査区遠景（西から）



6 2次調査終了状況（南から）



7 1次調査終了状況（西から）



8 調査後状況（南から）

図版 3



1 A・B面完掘状況（東から）



2 A面遺物出土状況（東から）



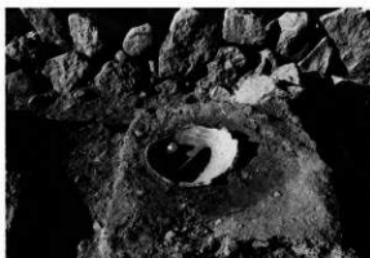
3 C・D面完掘状況（北から）



4 E面完掘状況（東から）



5 F面完掘状況（北から）



6 F面遺物出土状況（東から）



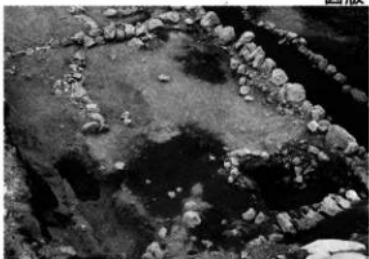
7 G面完掘状況（東から）



8 H面完掘状況（東から）



1 1号土坑(H面)完掘状況(南から)



2 I面完掘状況(東から)



3 2号土坑(I面)完掘状況(北から)



4 3号土坑検出状況(1号土坑底面)(東から)



5 3号土坑(Q面)完掘状況(西から)



6 A～I面完掘状況(南から)



7 J・K面完掘状況(東から)



8 J面遺物出土状況(東から)

図版 5



1 L面完掘状況（西から）



2 M面完掘状況（西から）



3 M面遺物出土状況（西から）



4 M面遺物出土状況（北から）



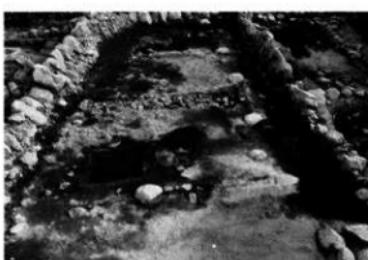
5 N・O面完掘状況（北から）



6 N面遺物出土状況（東から）



7 P面完掘状況（東から）



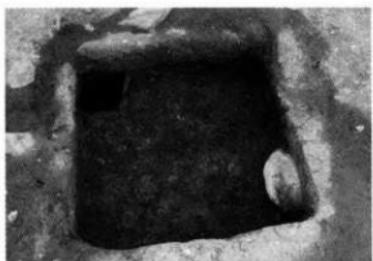
8 P面完掘状況（西から）



1 P面炭化物出土状況（西から）



2 4号土坑(P面)遺物出土状況（西から）



3 P面4号土坑完掘状況（西から）



4 Q面完掘状況（東から）



5 R面完掘状況（西から）



6 Vトレンチ確認状況（東から）

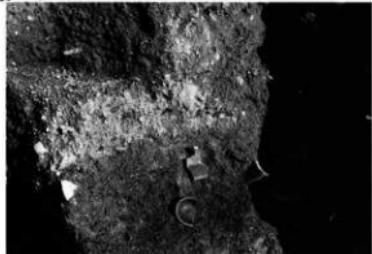


7 2次調査区表土面井戸確認状況（南から）



8 2A面完掘状況（東から）

図版 7



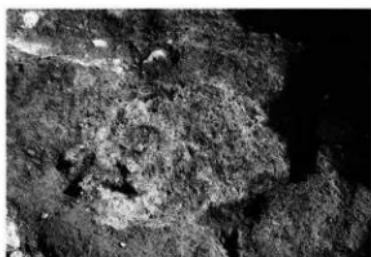
1 2B面遺物出土状況（南から）



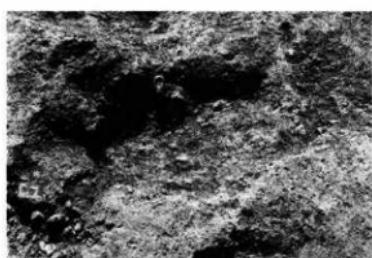
2 2-1号・2-2号土坑(2C面)検出状況（南から）



3 2-1号土坑(2C面)完掘状況（西から）



4 2-2号土坑(2C面)検出状況（西から）



5 2-2号土坑(2C面)完掘状況（西から）



6 2D面完掘状況（東から）



7 2E面完掘状況（北から）



8 2-4号土坑(2E面)完掘状況（北から）



1 2 F面完掘状況（東から）



2 2-3号土坑(2 F面)完掘状況（西から）



3 2 H面完掘状況（東から）



4 2 A～2 H面完掘状況（北から）



5 2 A～2 II面完掘状況（東から）



6 調査記録測量風景（南から）

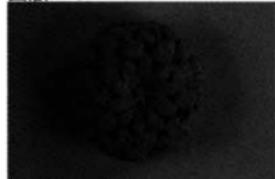


7 調査前状況（東から）

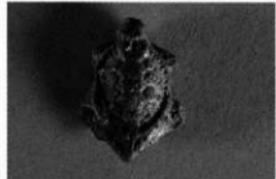


8 調査後状況（東から）

図版 9



1 土製品・骨角製品-1



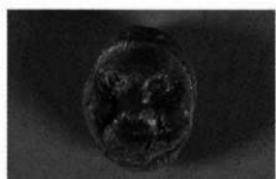
2 土製品・骨角製品-2



3 土製品・骨角製品-3



4 土製品・骨角製品-4



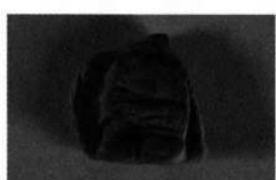
5 土製品・骨角製品-5



6 土製品・骨角製品-6



7 土製品・骨角製品-7



8 土製品・骨角製品-8



9 土製品・骨角製品-9



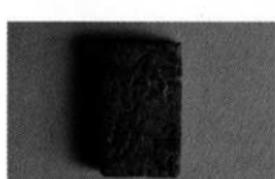
10 土製品・骨角製品-10



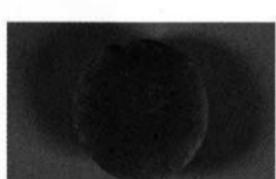
11 土製品・骨角製品-11



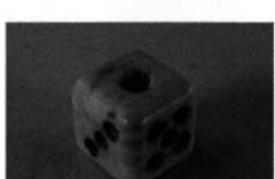
12 土製品・骨角製品-12



13 土製品・骨角製品-12



14 土製品・骨角製品-13



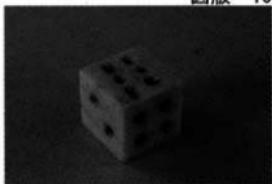
15 土製品・骨角製品-14



1 土製品・骨角製品-14



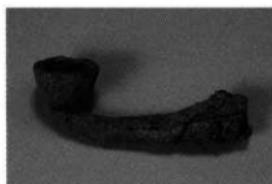
2 土製品・骨角製品-15



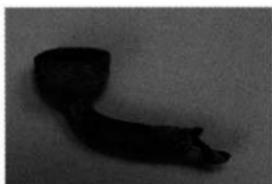
3 土製品・骨角製品-15



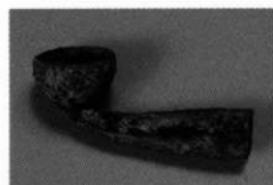
4 金属製品-1



5 金属製品-2



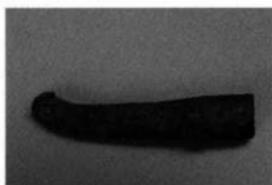
6 金属製品-3



7 金属製品-4



8 金属製品-5



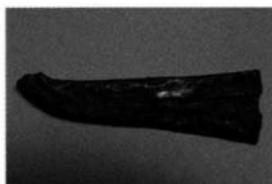
9 金属製品-6



10 金属製品-7



11 金属製品-8



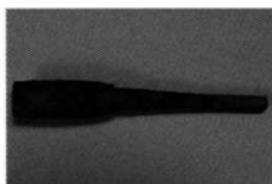
12 金属製品-9



13 金属製品-10

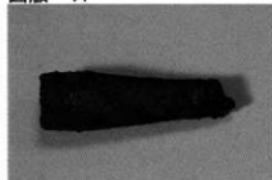


14 金属製品-11

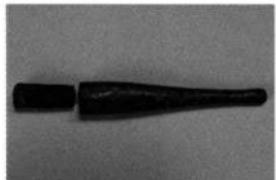


15 金属製品-12

図版 11



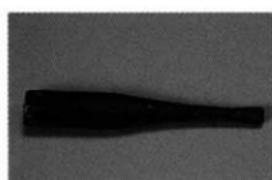
1 金属製品-13



2 金属製品-14



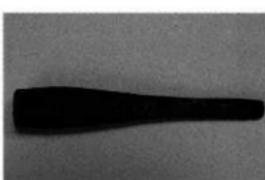
3 金属製品-14



4 金属製品-15



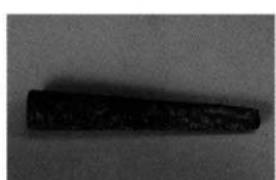
5 金属製品-16



6 金属製品-17



7 金属製品-18



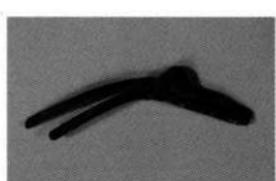
8 金属製品-19



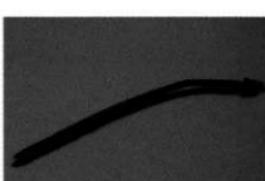
9 金属製品-20



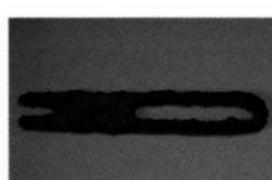
10 金属製品-21



11 金属製品-22



12 金属製品-23



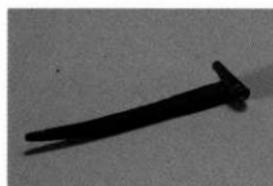
13 金属製品-24



14 金属製品-25



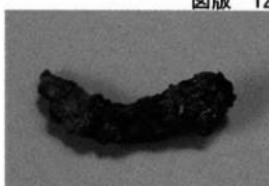
15 金属製品-26



1 金属製品-27



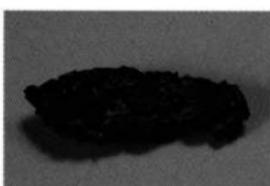
2 金属製品-28



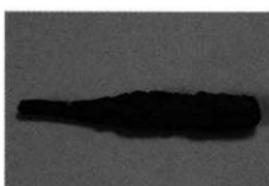
3 金属製品-29



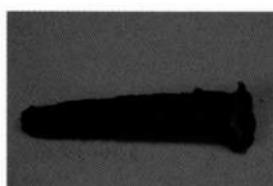
4 金属製品-30



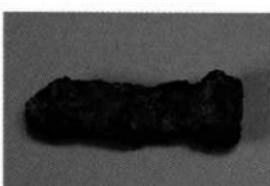
5 金属製品-31



6 金属製品-32



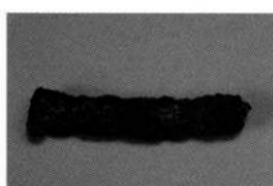
7 金属製品-33



8 金属製品-34



9 金属製品-35



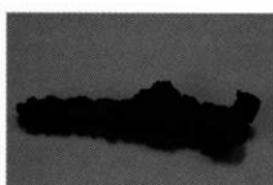
10 金属製品-36



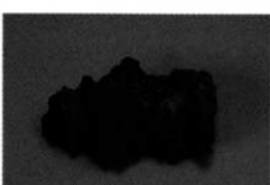
11 金属製品-37



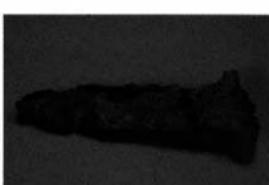
12 金属製品-38



13 金属製品-39



14 金属製品-40

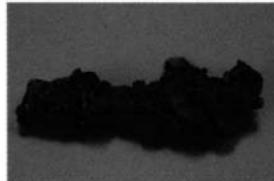


15 金属製品-41

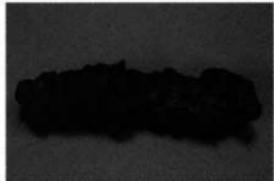
図版 13



1 金属製品-42



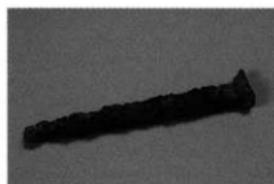
2 金属製品-43



3 金属製品-44



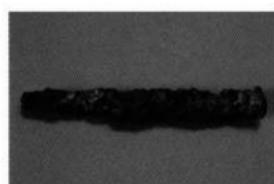
4 金属製品-45



5 金属製品-46



6 金属製品-47



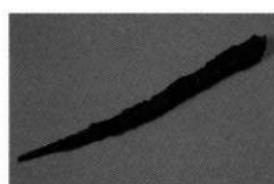
7 金属製品-48



8 金属製品-49



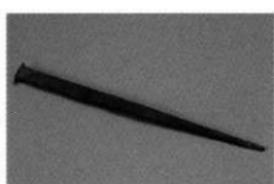
9 金属製品-50



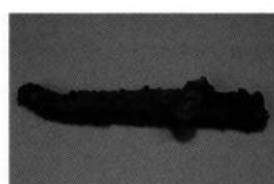
10 金属製品-51



11 金属製品-52



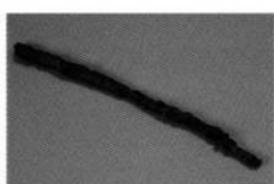
12 金属製品-53



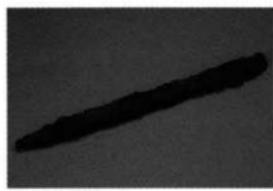
13 金属製品-54



14 金属製品-55



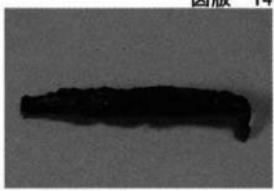
15 金属製品-56



1 金属製品-57



2 金属製品-58



3 金属製品-59



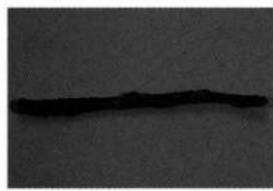
4 金属製品-60



5 金属製品-61



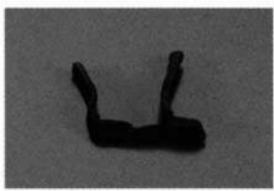
6 金属製品-62



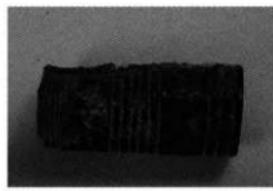
7 金属製品-63



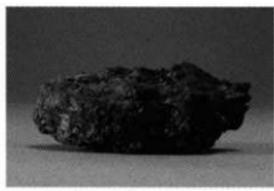
8 金属製品-64



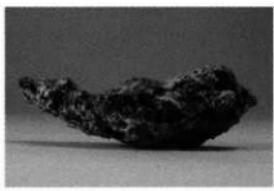
9 金属製品-65



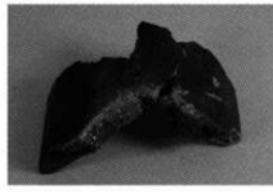
10 金属製品-66



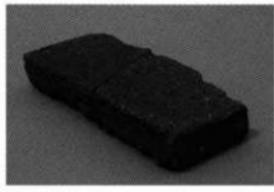
11 金属製品-67



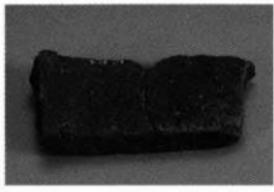
12 金属製品-68



13 瓦-1

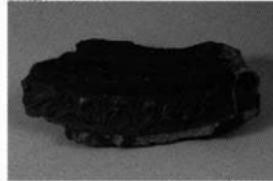


14 瓦-2



15 瓦-3

図版 15



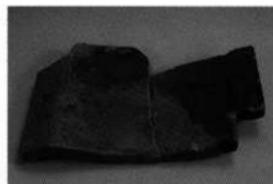
1 瓦-4



2 瓦-5



3 瓦-6



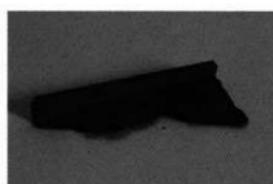
4 瓦-7



5 石製品-1



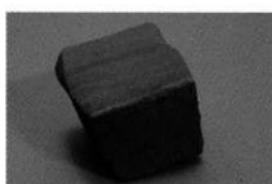
6 石製品-2



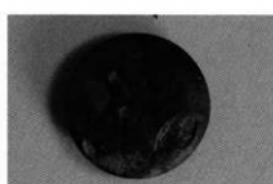
7 石製品-3



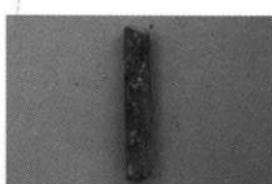
8 石製品-4



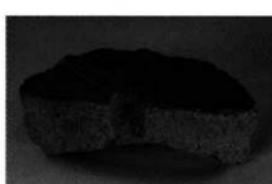
9 石製品-5



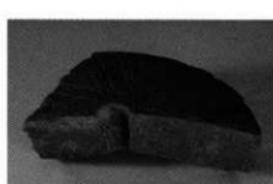
10 石製品-6



11 石製品-7



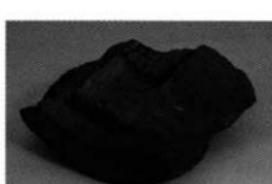
12 石製品-8



13 石製品-9



14 石製品-10



15 石製品-11

報 告 書 抄 錄

ふりがな	かじかざわかしあと（よこちょうちく）							
書名	鍬沢河岸跡（横町地区）							
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	高野高潔							
編集機関	埋蔵文化財発掘調査支援協同組合（埋文協）							
所在地	〒169-0073 東京都新宿区百人町1-20-24 TEL03-3365-2277							
発行年月日	西暦2008年（平成20年）3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地 市町村	コード 市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m)	調査原因
鍬沢河岸跡 (横町地区)	山梨県 南巨摩郡鍬沢町 1466-1外	19362	4464	35° 32' 23"	138° 27' 24"	2005.1.24 2008.11.19	467	宅地造成に 伴う事前調 査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
鍬沢河岸跡 (横町地区)	河岸跡	近世・近代		石垣17面 礎石建物跡1棟 土坑8基 など		磁器 陶器 土器 土製品 錢貨幣 金屬製品 石製品		
要約	鍬沢河岸跡の北端部に位置する地点から主に近世後期から近代の遺構・遺物が出土した。細かい区割りをなす石垣の内から、礎石列やが址と推定される遺構が検出されている。河岸機能の中で家屋が集中する区域であったと考えられる。							

版型 : A4判

頁数 : 82頁

本文組版 : 14級(10P)明朝を基本

図版製版 : 350dpi. 175線4色, 2色

図版印刷色 : 墨+マゼンタ+シアン+イエロー, 墨+CP8629

印刷方式 : オフセット印刷

用紙 : 表紙 特種製紙レザック80(つむぎ)うすずみ四六判 連量170kg

本文・図版 大王製紙ユトリログロスマットA判 連量44.5kg

© 2008 Maibunkyou.

山梨県南巨摩郡鰐沢町 鰐沢河岸跡(横町地区)

-宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-

平成20年3月31日 発行

編集	埋蔵文化財発掘調査支援協同組合(埋文協)	
	〒169-0073 東京都新宿区百人町1-20-24	TEL.03-3365-2277
発行	鰐沢町	
	〒400-0695 山梨県南巨摩郡鰐沢町1599-5	TEL.0556-22-2151
	鰐沢町教育委員会	
	〒400-0601 山梨県南巨摩郡鰐沢町1639-1	TEL.0556-22-5361
印刷・製本	株式会社 内田印刷所	
	〒400-0032 山梨県甲府市中央2-10-18	TEL.055-233-0188

